

(5) ホールの配置について

交通便利性の高い産業振興会館（約半数が市外利用者）を除き、各ホールとも、利用者（利用団体の代表者）の半数以上は当該ホールから概ね半径5km圏内に居住しており、「生活行動圏」内での移動が半数以上となっています。

産業振興会館についても、市内利用者に着目すると、「生活行動圏」での移動が多数（川崎・幸で半数以上）となっています。

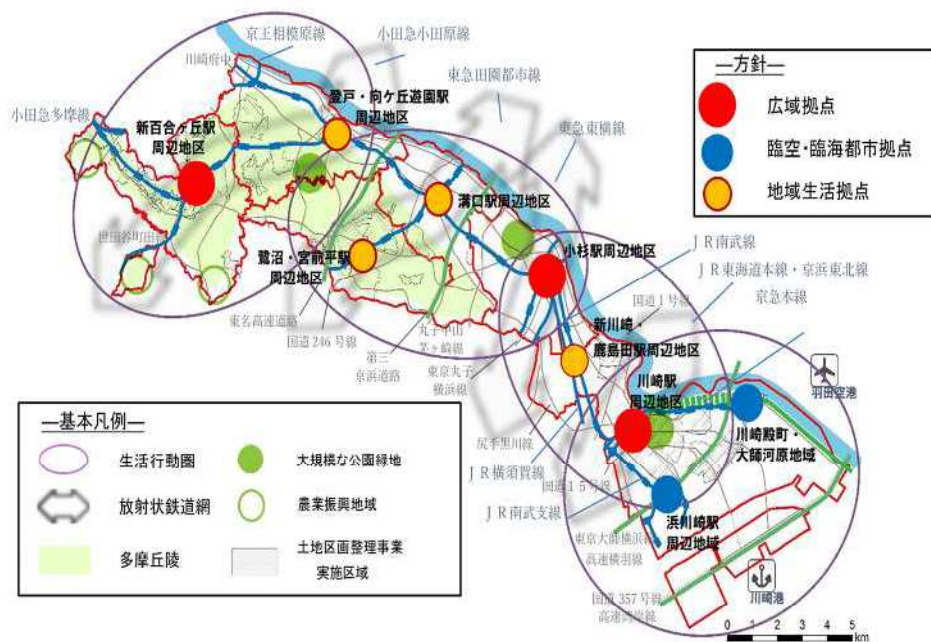
利用者へのアンケートやヒアリングにおいても、ホールへのアクセス手段については、ほとんどの利用者が公共交通機関を利用しており、ホールを選ぶ際に重視する項目としては、「公共交通機関でのアクセス性」が「利用料金」を上回って1位となっています。

このような状況を踏まえると、ホールの適正配置を検討する際には、地域のニーズにきめ細やかに対応する観点から、市民の生活行動圏を踏まえる必要があります。

生活行動圏とは

生活行動圏とは、市民の日常的な生活エリアのことです。

本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標などを定める「川崎市総合計画」の中では、「『生活行動圏』を川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリアの概ね4つに大別し、地域の特性を活かしたまちづくりを進めることが重要」としています。



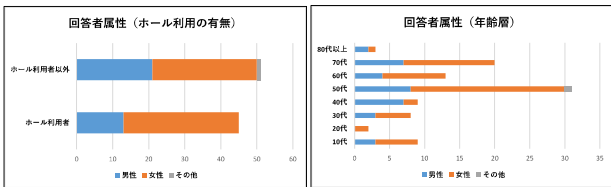
施設利用者へのアンケート調査結果（概要）

各施設の一般利用者の交通アクセス手段、ホールを選ぶ際に重視する項目等についてアンケート調査を実施しました。

調査対象：ホール機能を有する本市公共施設を利用する全ての利用者
 調査方法：各ホールに二次元バーコード付きアンケート用紙を配架し、Web上で回答を収集する
 他、これまでヒアリングを実施した団体代表者等を通じて、団体内の利用者へ回答依頼
 調査日程：令和4年2月17日（木）～令和4年4月22日（金）
 回答総数：96人（うち、ホール利用者45人）

回答属性

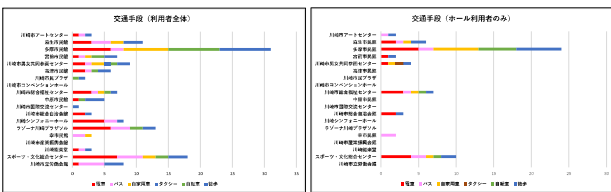
回答者はホール利用者が全体の約47%、年齢層は50代以上が約71%でした。



ホールへの交通アクセス手段について（複数回答あり）

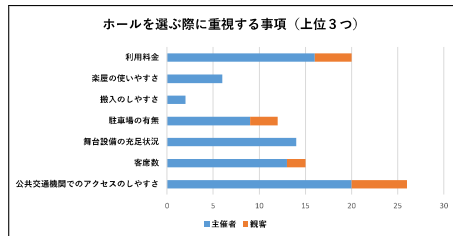
利用者全体（ホール以外の利用者を含む）及びホール利用者の交通手段については、公共交通機関（電車・バス）を利用している方が多い結果となりました。

ホールへのアクセス手段として、公共交通機関（電車とバスいずれか又は両方）利用している方は、利用者全体の約60%（96名中58名）、ホール利用者に限定すると約55%（45名中25名）でした。



ホールを選ぶ際に重視する項目（最大3つまで回答とした）※選択及び自由回答式

ホール利用者がホールを選ぶ際に重視する項目としては、主催者・観客ともに「公共交通機関でのアクセスのしやすさ」が最も多く、「利用料金」を上回っています。



他に利用するホールについて（複数回答あり）※選択及び自由回答式

各ホールの利用者が普段から利用する他のホールについて回答があったものは以下のとおりです。

回答した利用施設	他に利用するホール
川崎市スポーツ・文化総合センター	労働会館、川崎シンフォニーホール、その他
幸市民館	労働会館
ラゾーナ川崎プラザソル	幸市民館、宮前市民館、多摩市民館、スポーツ・文化総合センター、
川崎シンフォニーホール	スポーツ・文化総合センター、高津市民館、多摩市民館、麻生市民館、サントリーホール、東京文化会館、東京芸術劇場、東京オペラシティ、新国立劇場、すみだトリフォニーホール、横浜みなと
川崎市総合自治会館	中原市民館、高津市民館、国際交流センター
川崎市総合福祉センター	国際交流センター、多摩市民館、麻生市民館、宮前市民館
川崎市男女共同参画センター	高津市民館、川崎市民プラザ
宮前市民館	幸市民館、多摩市民館、麻生市民館
多摩市民館	労働会館、スポーツ・文化総合センター、高津市民館、宮前市民館、
麻生市民館	幸市民館、宮前市民館、多摩市民館、男女共同参画センター、アートセンター、その他
川崎市アートセンター	麻生市民館

8. 公共ホールの機能整理・適正配置等を行う上での基本方針

各ホールの機能整理・適正配置等にあたっては、総合計画に定める本市がめざす都市像やまちづくりの基本目標、『効率的・効果的な行財政運営による「持続可能な最幸のまち」の実現』などを基本理念とする行財政改革の視点を踏まえるとともに、川崎市文化芸術振興計画との整合を図りながら、以下の考え方で取組を進めるものとします。

(1) 利用実態を踏まえた効率的・効果的な利活用に向けて

公共施設は施設単体で捉えた場合には、多目的な利用を促すことが市民の利用機会の拡大や資産マネジメントの観点から有効であると考えられますが、同一機能を有する施設それぞれを多目的化することが必ずしも有効であるとは限りません。

ホール機能を有する19施設をそれぞれ多目的化しようとした場合、利用用途それぞれに応じた設備を備える必要があります。

また、各ホールの利用実態等を踏まえると、今後将来にわたって現在の機能・規模を維持していくことは合理的ではないと考えられます。

加えて、資産マネジメントの観点からも、今後見込まれる人口減少、厳しい財政環境、将来世代の負担等を踏まえると、ホール機能を有する施設についてもこれまでと同様の設備・規模で更新していくことは非常に困難な状況です。

一方で、多様化・増大化する市民ニーズに的確に対応するとともに、現在の利用実態や将来の利用想定等を踏まえながら引き続き市民サービスを提供することも必要です。

そこで、各ホールの設備・規模等の検討にあたっては、市内の公共ホール全体の利用実態や配置状況を踏まえながら、現在の機能・規模の適正化を念頭に各ホールで適切に役割分担を行っていきます。

(2) 各ホールの役割分担の検討にあたってのエリア設定の考え方

各ホールの利用者の居住エリアや交通アクセス手段等を踏まえると、川崎市総合計画（都市構造・交通体系）における「生活行動圏」（川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリア）内での利用が多いことが分かります。

本市のまちづくりの考え方においても、「市民の身近な日常生活は、住まいを起点に、近隣地域から身近な駅やターミナル駅周辺など、鉄道路線に沿ったエリアで展開」していることを念頭に、「地域生活拠点及び交通利便性の高い身近な駅周辺のまちづくり」を推進することとしております。

そこで、各ホールでの役割分担の検討にあたっては、「生活行動圏」をエリアとして設定し、それぞれのエリア内での各ホールでの役割分担を行っていきます。

(3) 本市の公共ホール以外の施設との連携

資産マネジメント第3期実施方針においては、「必要な機能の整備を図るため、公共施設については、全てを本市が保有するのではなく、賃借を含めた適切な手法も使用する」としてしています。

ホール機能を有する19施設の利用状況を見ると、練習利用や少数での利用など、ホール以外でも対応可能と思われる利用もあります。

そこで、利用目的に応じて、本市の他の公共施設や民間の施設への誘導を図るなど、本市の公共ホール以外の施設との連携も視野に入れて検討を進めます。

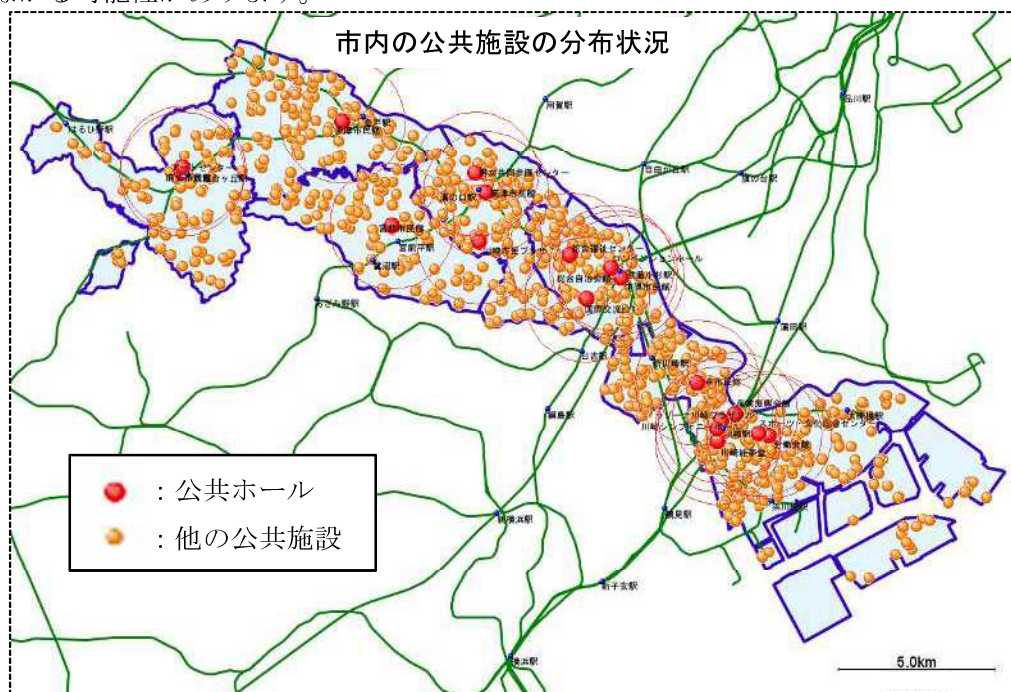
他の公共施設への誘導の可能性について

公共ホールの利用状況を見ると、練習利用や少人数での利用など、ホール以外でも対応可能と思われる利用もあります。

例えば、19の公共ホールから半径2km圏内には114の公共施設（区役所支所・出張所、学校施設除く）があり、条件付き（年齢制限や居住地の制限など）での利用可能性を含めると、9割以上の施設で一般利用が可能となっています。

また、公共ホールでの主な利用用途（音楽、演劇、ダンス、会議、カラオケ等）での利用が可能な諸室も多く、中には稼働率が50%に満たないも諸室も一定数あります。

これらの施設についても、利用者制限等の緩和や防音機能の整備など、より利用しやすい環境を整えることで、現在のホール利用者を含めた市民サービスの向上につながる可能性があります。



9. 具体的検討を進める上での前提条件の整理（利用用途に応じた必要な設備等）

ホールには舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備などの設備がありますが、利用用途毎に必要とする設備に違いがあります。

ホールの役割分担検討にあたっては、利用用途に応じて必要となる設備を整理する必要があります。

（1）主なホールの設備

ホール設備の種類は、舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備など利用目的に応じて多岐にわたります。

主な設備は以下の通りです。

ア 舞台機構

	用途	写真
吊物機構	大道具や舞台幕、照明器具などを吊り、昇降させる機構である。吊物機構の種類には照明ボタンや幕ボタンなどがあり、動作方法には手動または動力のシステムがある。	
床機構	舞台床に設置された昇降、走行、回転を行う機構であり、スピーディーな舞台転換、効果的な演出、立体的な舞台を構成するために使用される。また、大道具等の搬入・搬出に使用する場合もある。	
音響反射板	音響反射板はプロセニウム形式の多目的ホールを、コンサートホール形式に変えるための舞台機構設備である。舞台上の演奏音を客席側へ反射させて、また同時に演奏者自身にも音を返し、演奏に適した音質の空間を作る。	

	用途	写真
緞帳類	舞台と客席を仕切る幕であり、舞台の一番前に吊られており、開演時、終演時及び休憩時などに使用される。緞帳類には、緞帳、絞り緞帳、オペラカーテン、定式幕があり、演目により使う緞帳の種類が異なる。	
黒幕類	黒い幕は、見えないように隠す目的や、両角（間口とタツパ）を構成する。照明器具の明かりが抜けないことが重要である。1つの施設においては、袖幕・一文字幕をはじめ、同じ布地を使用することが通例である。	
白幕類	白い幕は演出意図に合わせて照明や映像を投影し、演出効果を高める目的で使用される。照明や映像を投影して演出効果を高める水平幕、映写機やプロジェクターで映像を写すスクリーンがある。	

イ 舞台照明

	用途	写真
<p>照明（舞台側）</p>	<p>舞台照明は単に舞台を明るくするということ以上に、舞台芸術における様々な演出に応える情景を照明によって作り出すためのものである。</p> <p>舞台側には、舞台上部から舞台上を照射するためのサスペンションライト、舞台全体を均一に照らすボーダーライト、舞台後部の Horizont 幕や背景幕に均一に照明して、明るさや色を与える Horizont ライトなどがある。また、客席側には、客席の左右両側から舞台へ投射するフロントサイドライト、客席正面の上部から舞台を照射するシーリングライト、客席側から舞台上の出演者の動きに合わせて動かすフォロースポットなどがある。</p>	
<p>照明（客席側）</p>	<p>舞台照明は観客の目に触れるのは、照明器具から出る光であり、照明デザインを計画する上で、用途や目的、上演演目、演出方針の違いによる、照明器具や光源の特性、性能、数量などの選択が重要である。</p>	
<p>調光操作卓</p>	<p>オペレーターが操作することによって、作品における照明シーンを再生するための装置である。多様な照明器具の照度を調整することによって、多種多様な舞台照明デザインの実現を可能にする。</p>	

ウ 舞台音響

	用途	写真
音響装置	ホールの観客と舞台音響設備の接点であるスピーカー、スピーカーを駆動するために電力増幅に特化したパワーアンプ、空気振動を音声電気信号に変えるマイクなどがある。スピーカーには、客席の壁面に設置されるウォールスピーカー、客席天井部に設置されるシーリングスピーカーなどの常設スピーカー、自由に設置できる移動スピーカーがある。	
録音再生機	CDレコーダー、MDレコーダー、ハードディスクレコーダー、メモリーレコーダーなどがある。舞台音響では録音された音を再生することも重要である。	
音響調整卓	多数のマイクや再生機器類からの入力信号をミキシングして、常設スピーカーや移動スピーカーなど、多数の出力系統へ送っている。	
三点吊マイク	3本のワイヤーで吊り下げるマイクロホン装置のことで、主にホールや劇場の客席前部の天井に設置されている。三点吊マイクロホンは、演奏など録音のメインマイクのほか、ノイズ收音用、エアモニター用のマイクとしても使用される。	

エ その他

	用途	写真
プロジェクター	映像コンテンツの投影だけではなく、舞台美術や照明の補助的な役割や、映像ならではの演出効果を担うなど、様々な目的で使用されている。	
ピアノ	音域や音量の幅、用途の幅広さなどが長所であり、独奏だけではなく、オーケストラ等との協演も得意とし、オールマイティーな性能を持つ。	
平台	舞台の上で高低をつける為の床（二重・山台）で、主にオーケストラ他演奏者のひな段・屋台造りに使用される。	
所作台	主に能・歌舞伎・日舞等で使用する、足拍子がよく鳴るよう設計し製作された台。天板の材質は桧系無節材が使用される。	
松羽目、竹羽目	松羽目は大きな松の絵が描いてあるもので、歌舞伎や能、日本舞踊など日本の伝統芸能を上演するときに使用される。「所作台」とともに使用するのが一般的である。	

(2) 各施設の設備の保有状況

各施設の設備の保有状況は下表の通りです。

施設	舞台機構						照明設備			音響設備				その他(備品)				
	吊物機構	床機構	音響 反射板	箆板類	黒幕類	白幕類	照明 (舞台側)	照明 (客席側)	調光 操作卓	音響装置	録音 再生器	音響 調整卓	三点吊り マイク	プロジェクター	ピアノ	平台	所作台	松羽目、 竹羽目
川崎市立労働会館	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
スポーツ・文化総合センター	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
川崎能楽堂	有	無	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	無	有	無	有	有	有
川崎市産業振興会館	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	無	無
幸市民館	有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	無
ラゾーナ川崎プラザソル	有	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	無	無
川崎シンフォニーホール	有	有	有	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	無	無
川崎市総合自治会館	有	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	無	無
川崎市国際交流センター	有	有	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	無	無
中原市民館	有	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	無
川崎市総合福祉センター	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
川崎市コンベンションホール	有	無	無	無	無	有	無	無	有	有	有	有	無	有	無	有	無	無
川崎市民プラザ	有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
高津市民館	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	無
川崎市男女共同参画センター	有	無	有	有	有	無	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	無	無
宮前市民館	有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
多摩市民館	有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
麻生市民館	有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
川崎市アートセンター	有	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	無	無

※設備の有無の判定に際して、設備の性能・仕様は考慮していない。

約2割の施設(労働会館、スポーツ・文化総合センター、総合福祉センターの3施設)で全ての設備を保有しており、多目的な利用が可能となっています。

その他の設備も含め、多くの設備を保有しているホールが多い状況ですが、ホールによっては利用頻度の少ない設備があることから、利用用途の観点から役割分担を行うことで、保有する設備の適正化を図る余地があると考えられます。

(3) 利用用途に応じた必要な設備

利用用途に応じた必要な設備を整理するために、ホール利用団体を対象にアンケートを実施しました。

調査対象 : 45団体 (文化芸術団体10団体、利用団体16団体、施設管理者19者)
 調査方法 : 上記調査対象団体へメール、郵送等によりアンケート調査票を送付し、回答を集計
 調査期間 : 令和4年7月12日(火)～令和4年7月27日(水)
 回答総数 : 32団体

アンケートは、利用実績の多い17の利用用途を対象とし、各設備の利用頻度を4段階(右表)で回答をしていただきました。各団体から複数の回答があるため、利用頻度を点数化(「◎:3点、○:2点、▲:1点、×:0点」)し、平均点から「2.50点以上:◎、1.50点以上2.50点未満:○、0.50点以上1.50点未満:▲、0.50点未満:×」として評価しました。

4段階の回答分類
 ◎ : 必ず使用する
 ○ : 使用することが多い
 ▲ : あまり使用しない
 × : 使用しない



分類	利用用途	舞台機構						照明設備			音響設備				その他				
		吊物機構	床機構	音響反射板	緞帳類	黒幕類	白幕類	舞台側照明	客席側照明	調光操作卓	音響装置	録音再生器	音響調整卓	三点吊マイク	アンプ/ミキサー	ピアノ	平台	所作台	松羽目、竹羽目
音楽	オーケストラ	×	▲	○	▲	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	○	×	×
	吹奏楽	×	▲	○	×	×	×	×	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	○	×	×
	合唱	×	▲	○	×	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	○	×	×
	ピアノ	×	▲	○	×	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	×	×	×
演劇・ダンス等	演劇・ミュージカル	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	▲	○	×	×
	ダンス	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	バレエ	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	幼稚園等生活発表会	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	▲	○	○	×	×
伝統芸能等	日本舞踊・能	○	×	×	▲	▲	▲	○	○	◎	○	▲	○	×	×	×	○	○	○
	邦楽	○	×	×	▲	○	▲	○	▲	○	○	▲	○	×	×	×	○	×	×
	落語	○	×	×	▲	○	▲	○	○	○	○	▲	○	×	×	×	○	×	×
	太鼓	○	×	×	▲	○	▲	○	○	○	○	▲	○	×	×	×	×	×	×
その他	会議・セミナー等	▲	×	×	×	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲	○	×	×	▲	×	×	×
	カラオケ	▲	×	×	×	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○	×	×	×	▲	×	×
	映画会	×	×	×	×	▲	○	▲	×	▲	○	○	○	×	○	×	×	×	×
	展示会	×	×	×	×	×	×	▲	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
健康診断	×	×	×	×	×	×	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

アンケートの結果、利用用途に応じて必要な設備がことなっていること、さらに利用用途を上表のように分類(「音楽」、「演劇・ダンス等」、「伝統芸能等」、「その他」)すると、各分類で必要な設備に傾向があることがわかります。

例えば、「音楽」は、音響反射板、三点吊マイク、ピアノが必要で、舞台機構の吊物機構や幕類は不要ですが、「演劇・ダンス等」では、舞台機構、照明設備、音響設備は必要で、床機構、音響反射板、三点吊マイクは不要となるなど、「音楽」と「演劇・ダンス等」では必要な設備が異なっている場合が多いことがわかります。

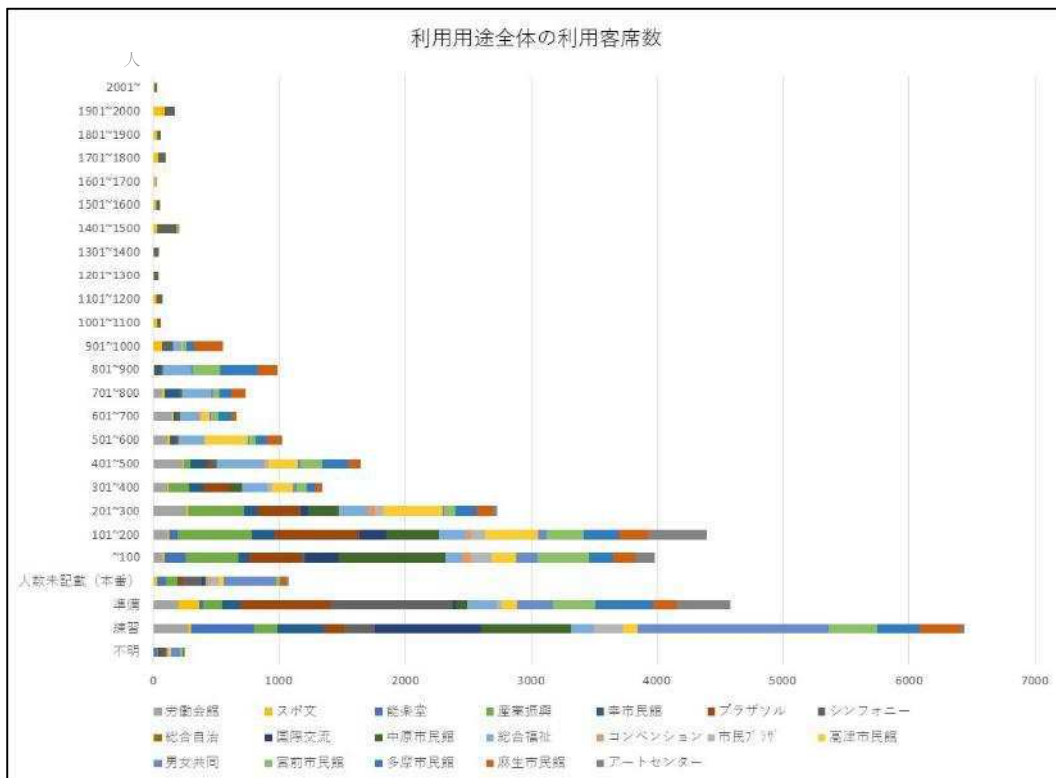
「伝統芸能等」は、「演劇・ダンス等」で必要となる設備に加え、用途によっては平台、所作台、松羽目が必要となっています。

現在は、多目的な利用が可能な施設が多い状況ですが、各ホールで保有している設備を考慮するとともに、利用用途毎の必要な設備の傾向を踏まえた上で、役割分担の検討を行っていく必要があります。

10. 具体的検討を進める上での前提条件の整理（利用用途に応じた施設規模）

本市の公共ホールは、客席規模が 148 席の川崎能楽堂のような小規模なホールから、2,013 席のスポーツ・文化総合センターの様な大規模なホールがあり、施設規模にバラつきがあります。

ホールの役割分担を行う際には、利用用途に応じて求められる施設規模を踏まえる必要があります。



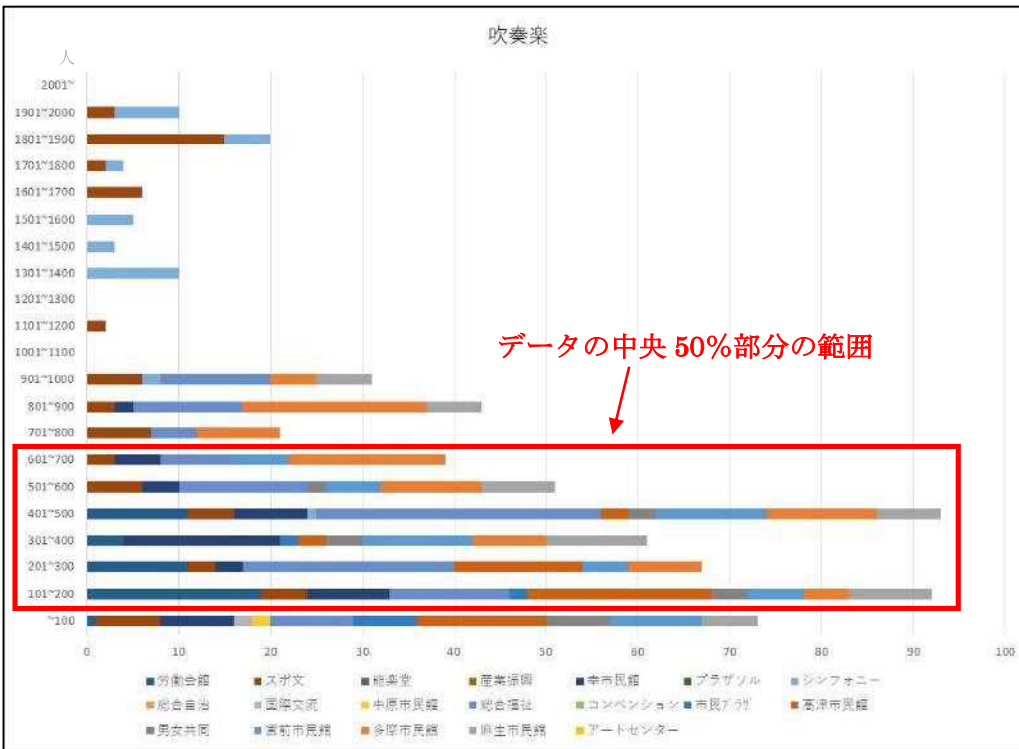
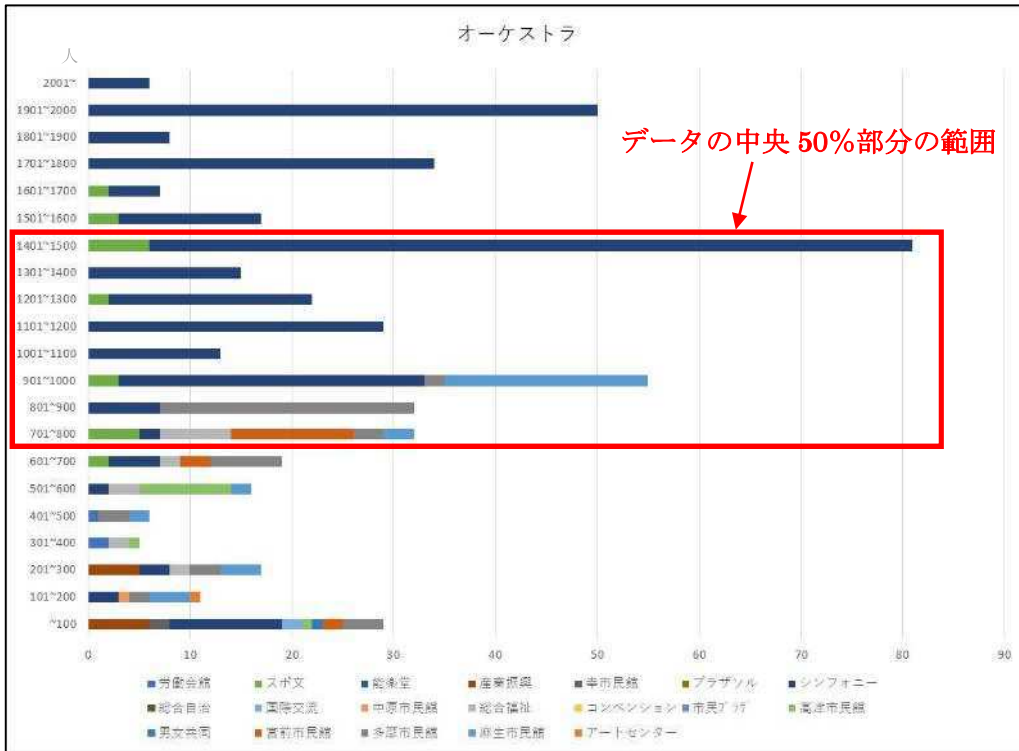
（1）利用用途別の利用客席数

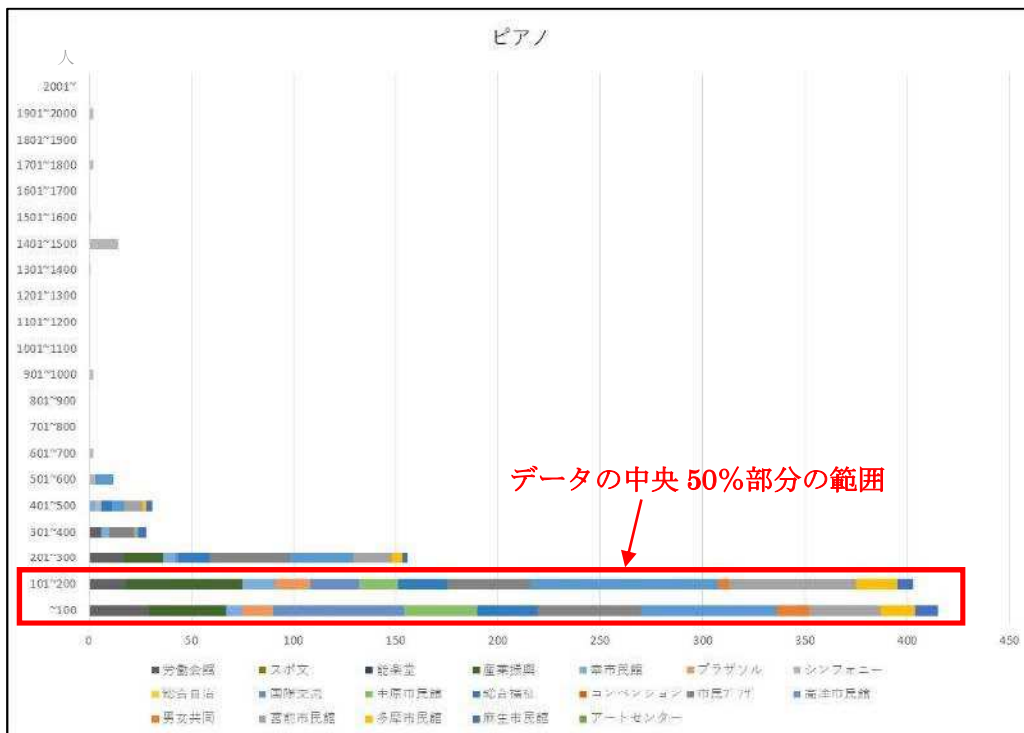
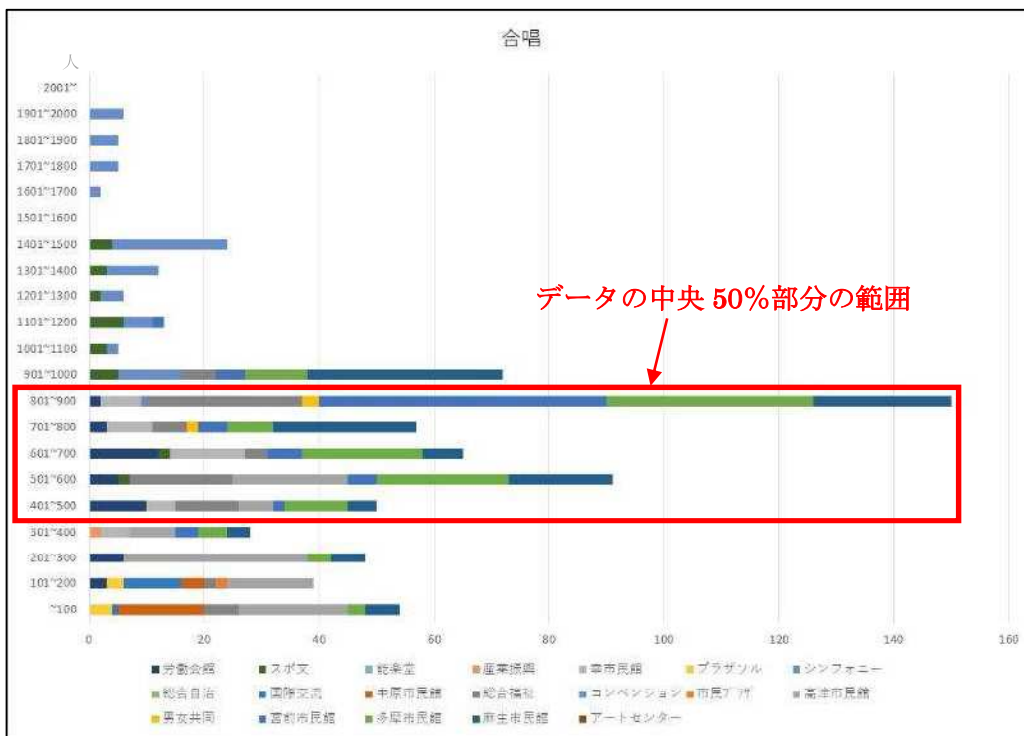
利用用途によって、利用客席数の規模に傾向が見られる可能性があることから、利用者データを用いて、本番利用時の各用途に必要な客席規模について分析を行いました。

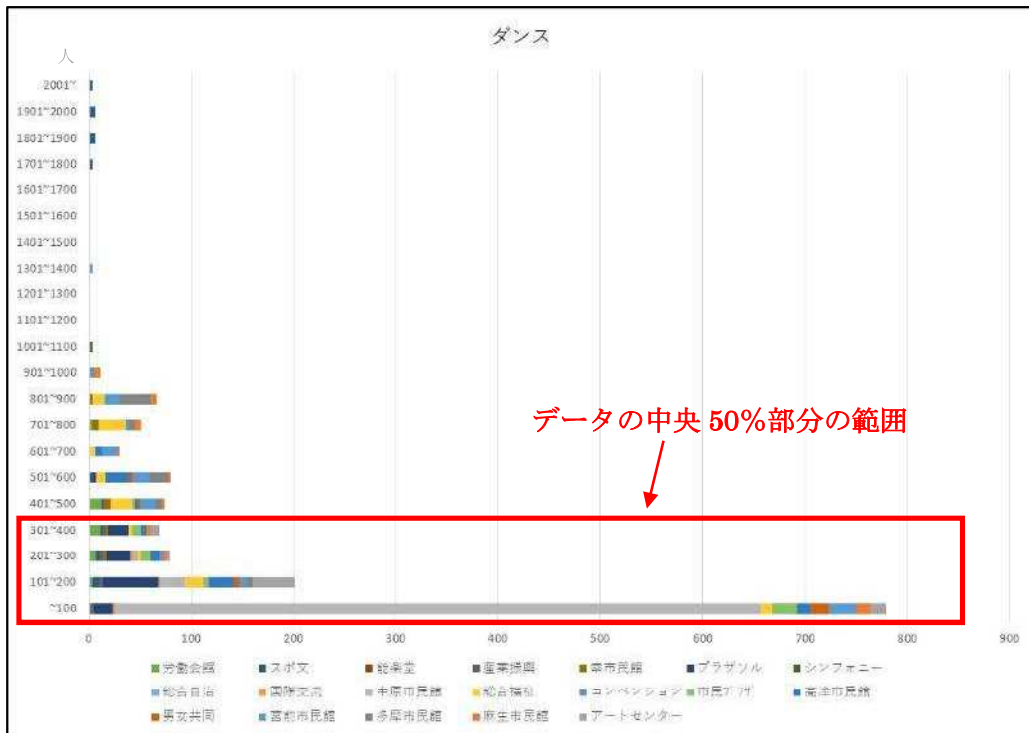
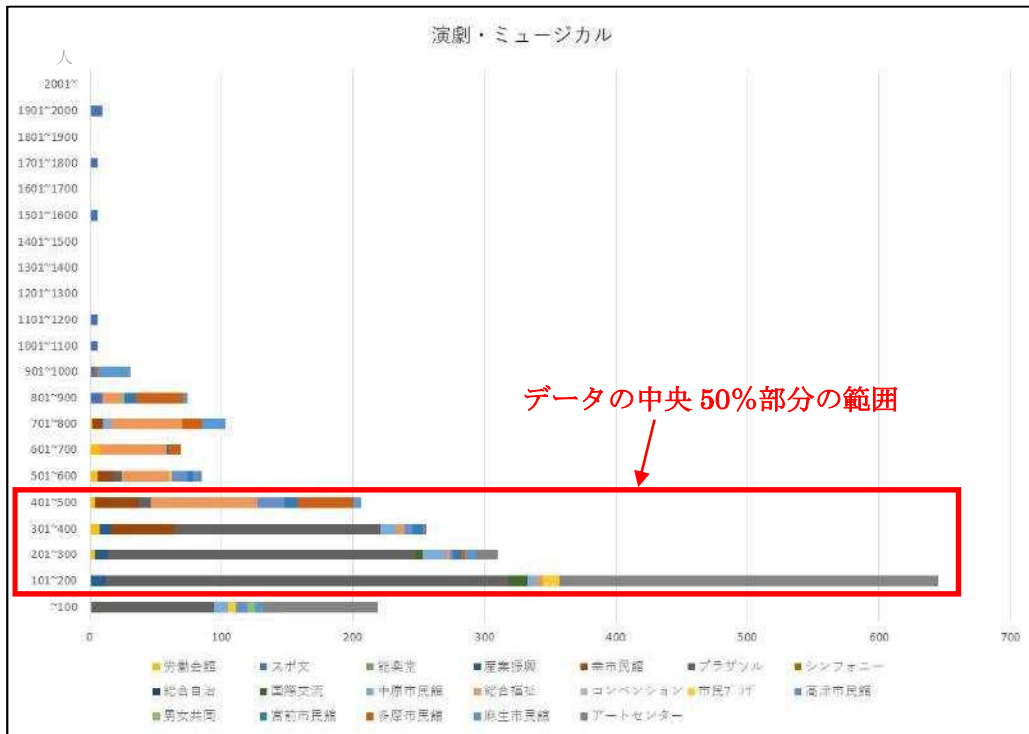
分析にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、平成 28 年度～平成 30 年度の 3 か年実績データを母集団とし、練習利用や本番の為の準備などは母集団から除いています。

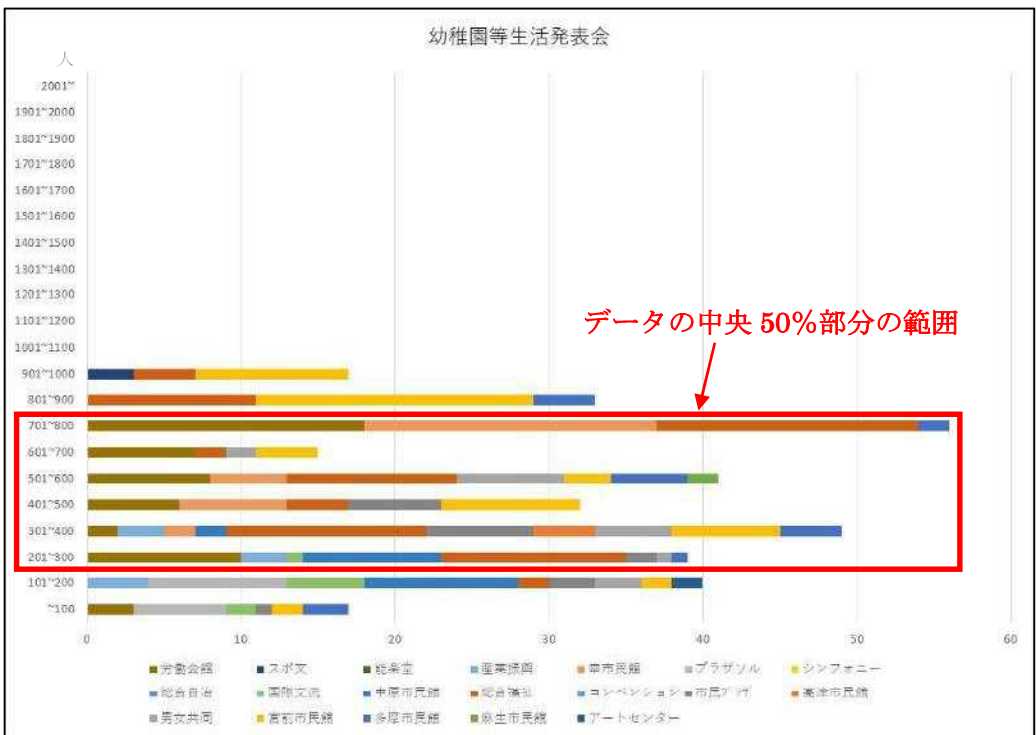
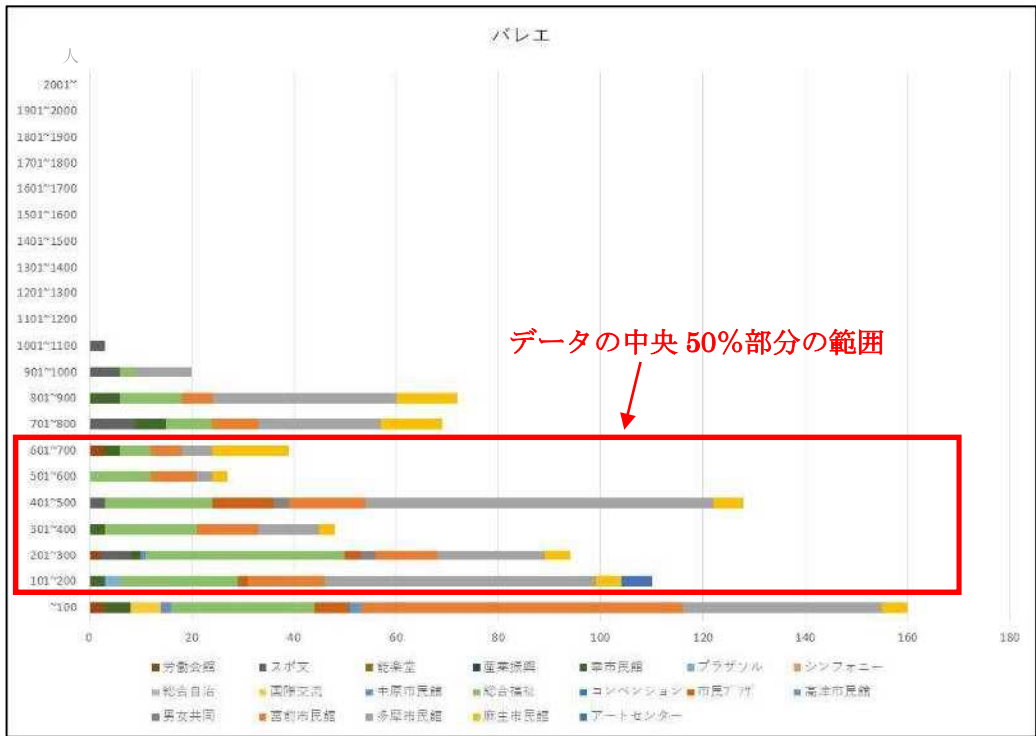
主な利用用途別の利用客席数の状況は以下の通りです。

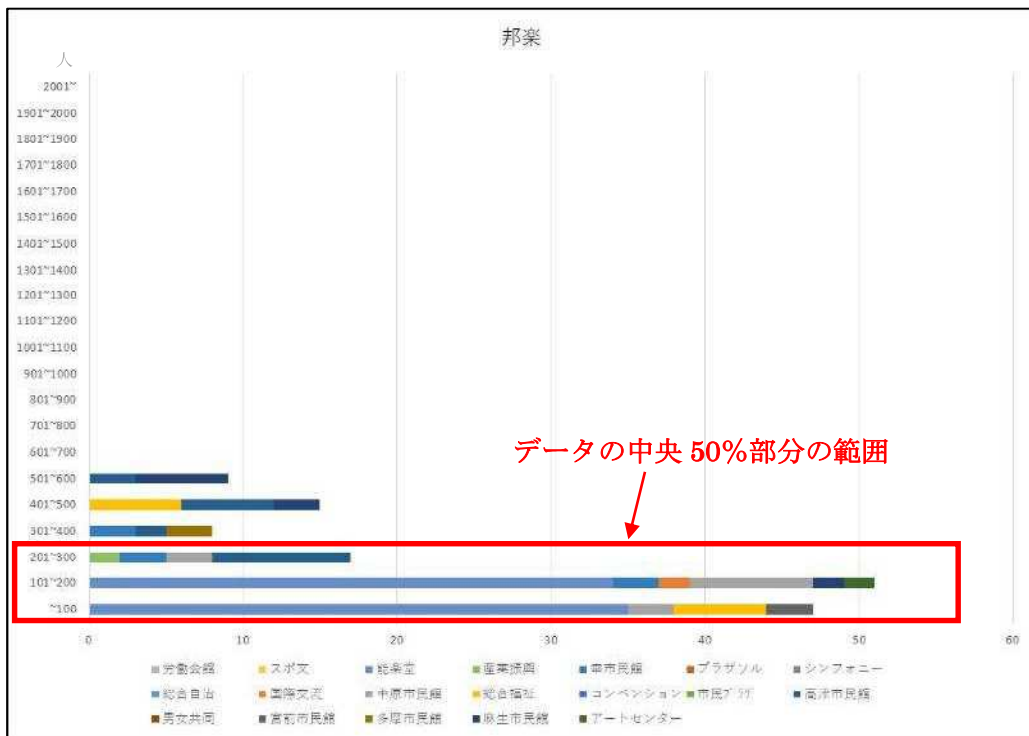
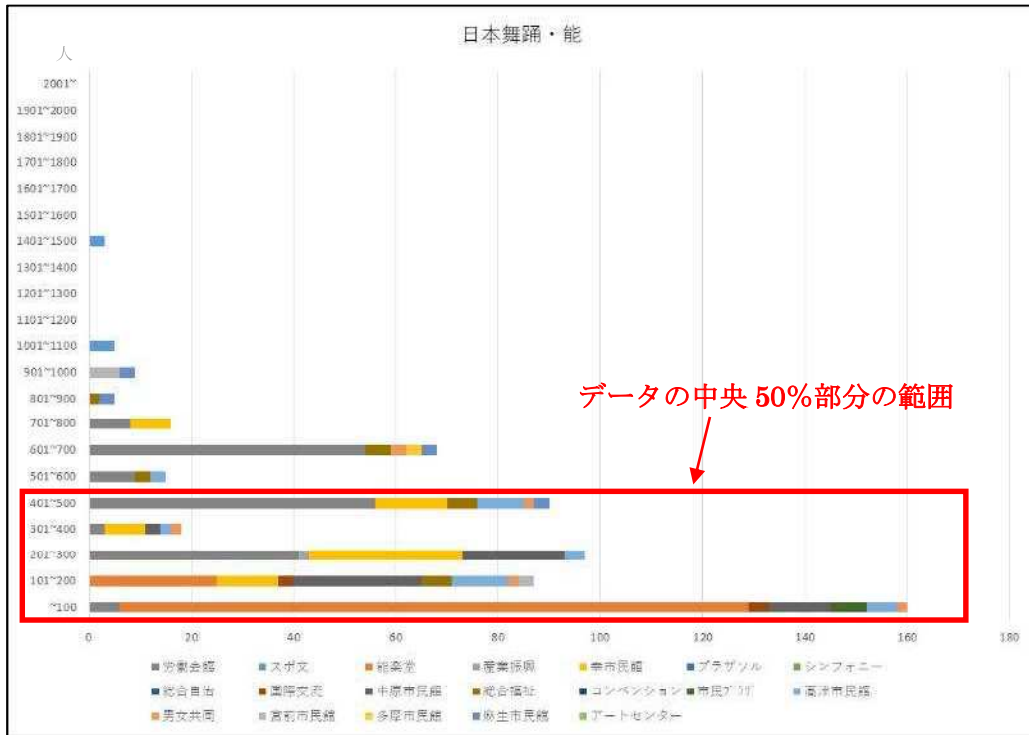
なお、図中の赤枠は、実際の利用コマを利用人数が小さい順に並べた時の、中央値の前後 25%分（全体の 50%）の利用コマを囲っています。

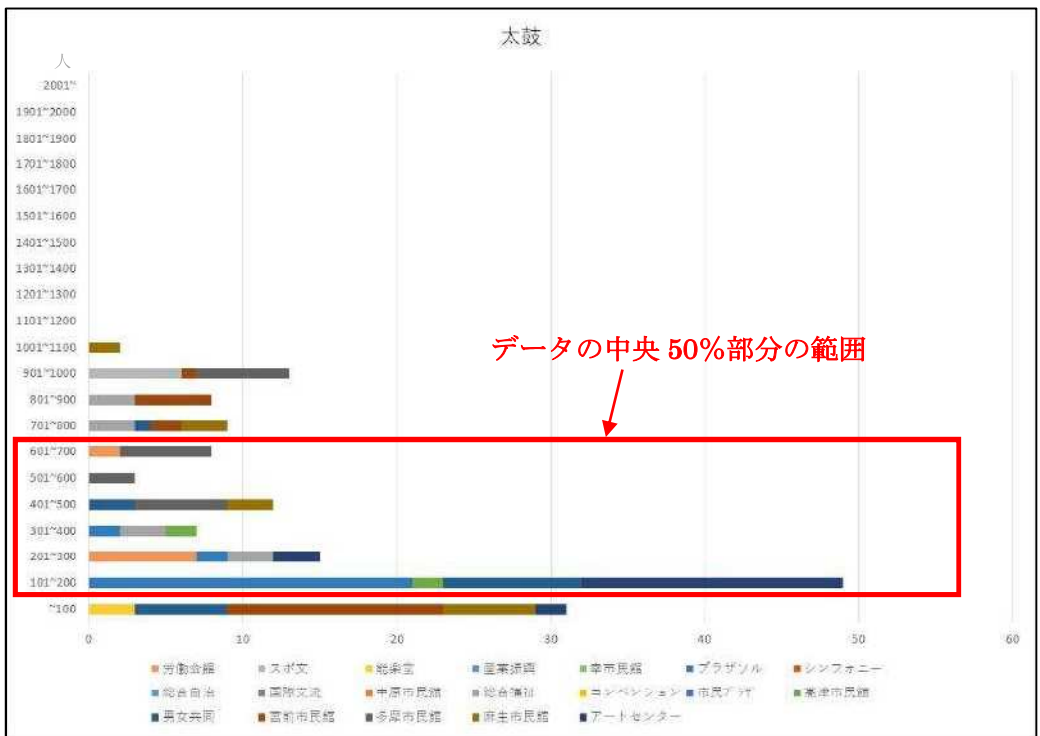
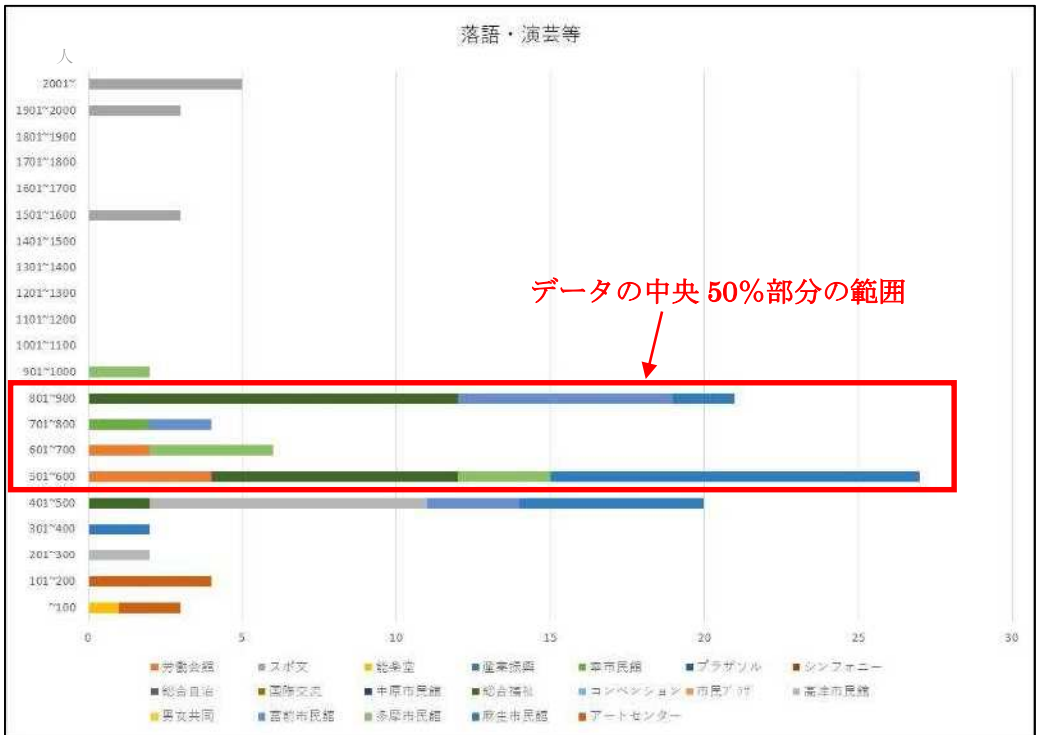


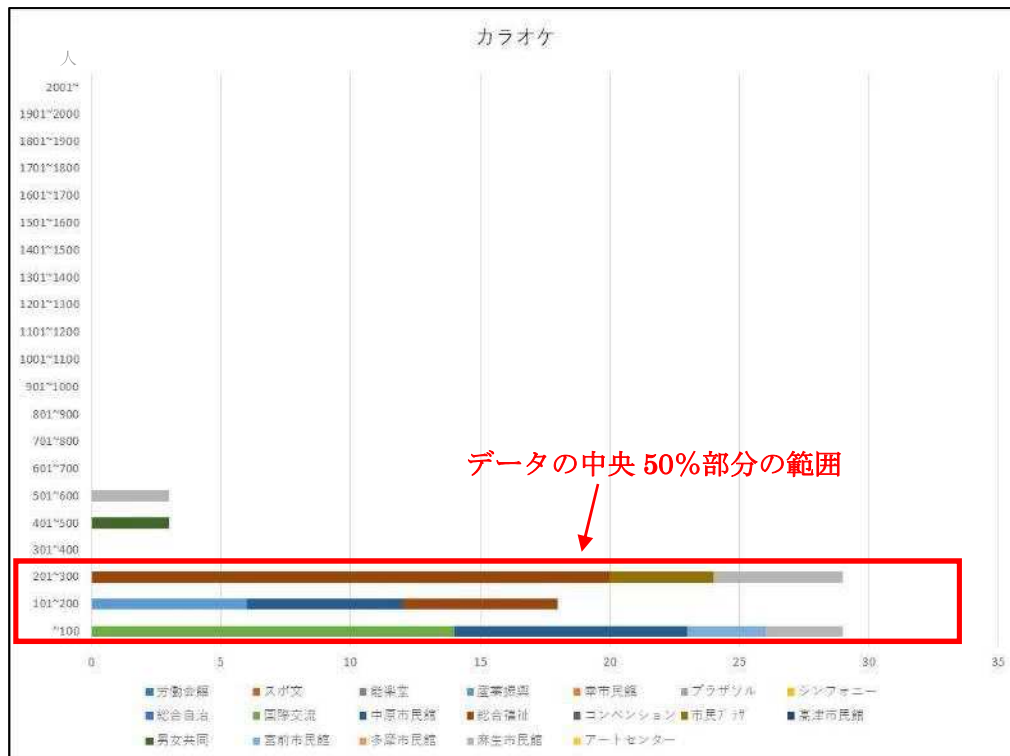
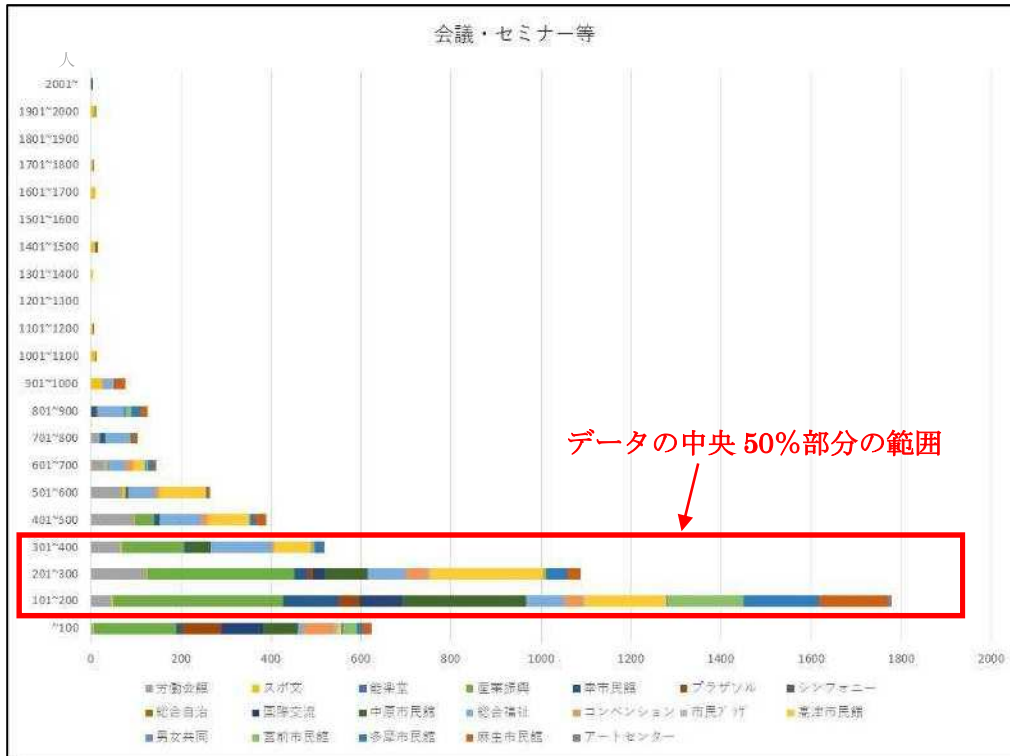


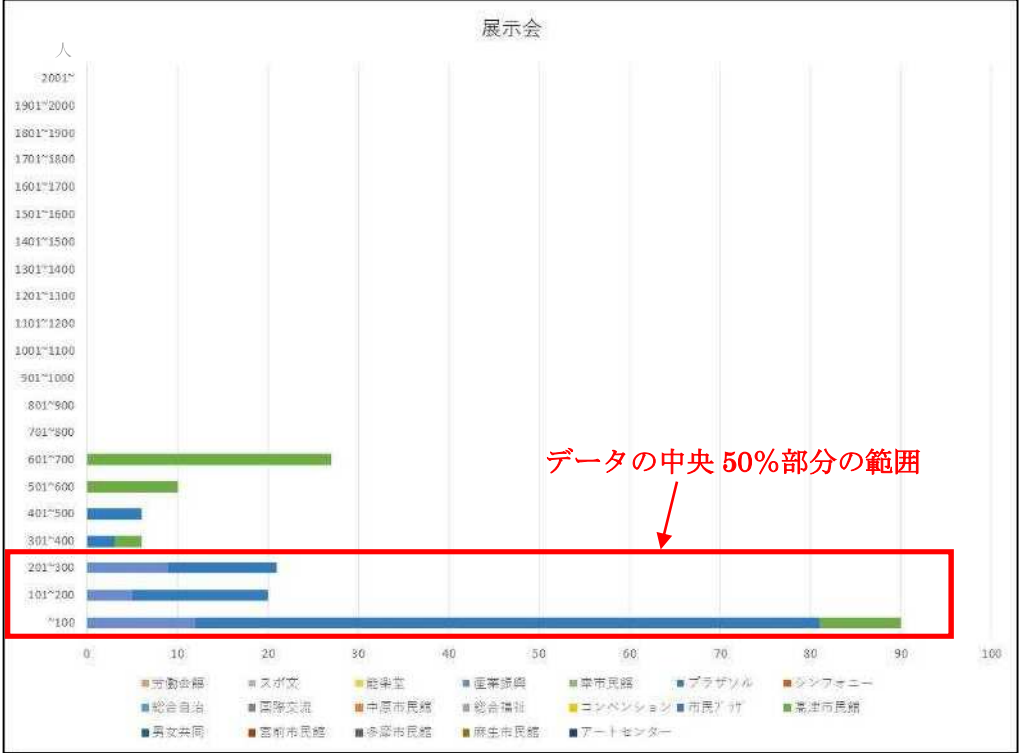
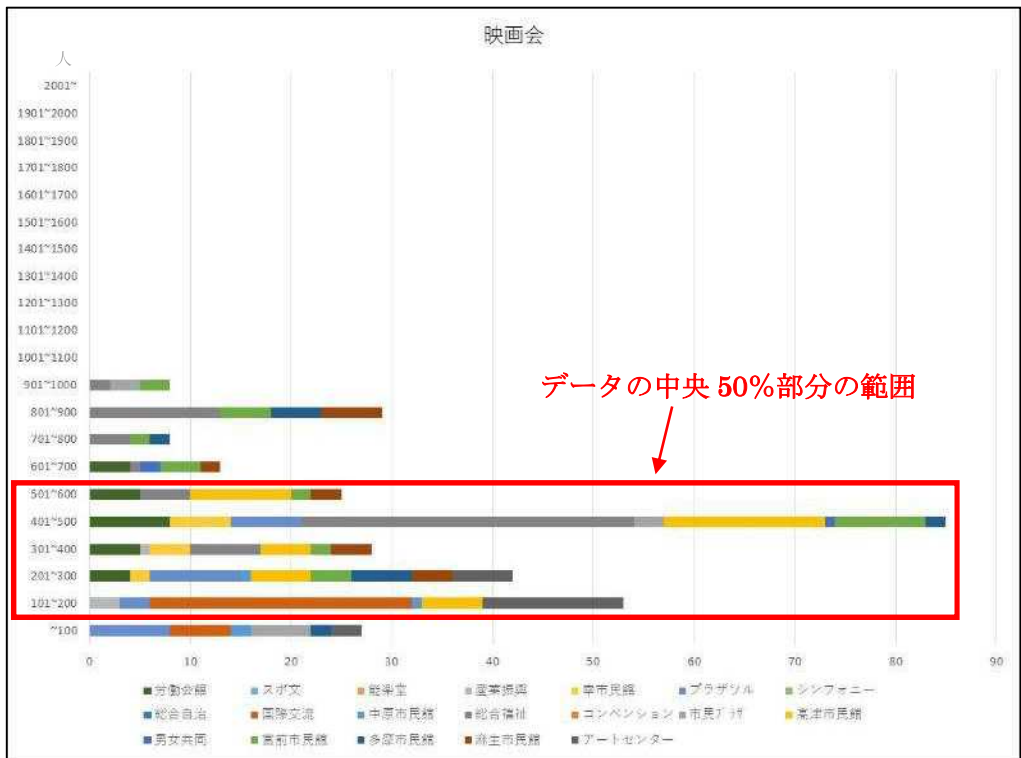


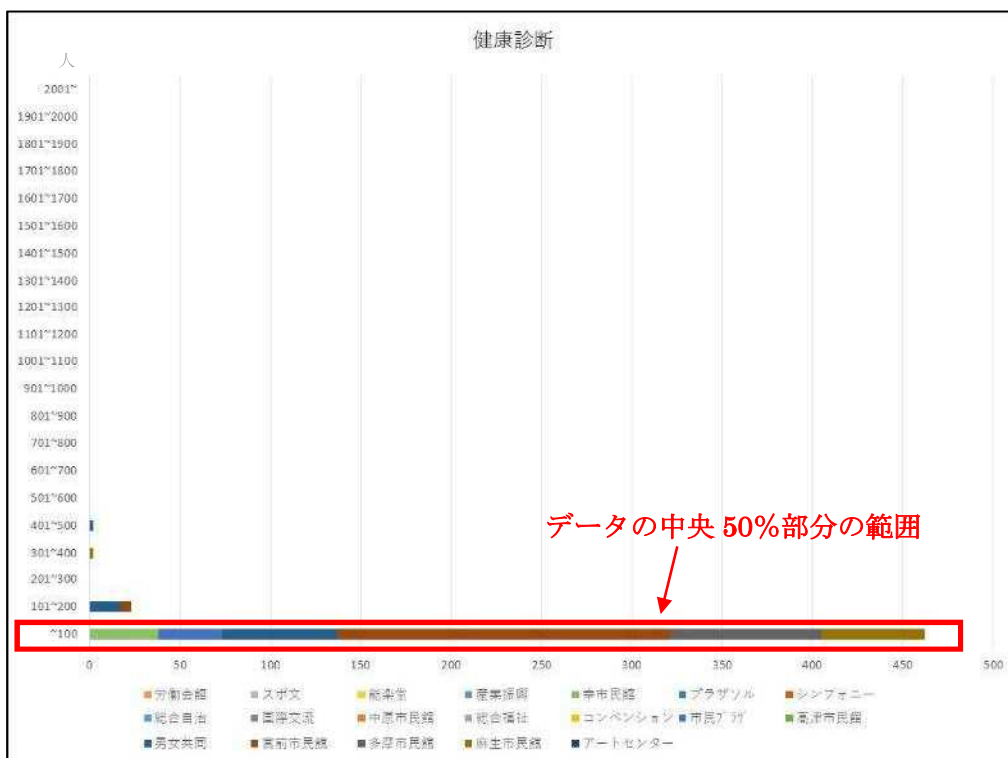












分析の結果、利用用途により、必要となる利用客席数が集中する範囲があるとともに、用途別の違いもあることがわかります。

そのため、市内の公共ホールは客席数にバラつきがあることを踏まえると、利用用途別の客席規模の視点から役割分担を行うことが必要となります。

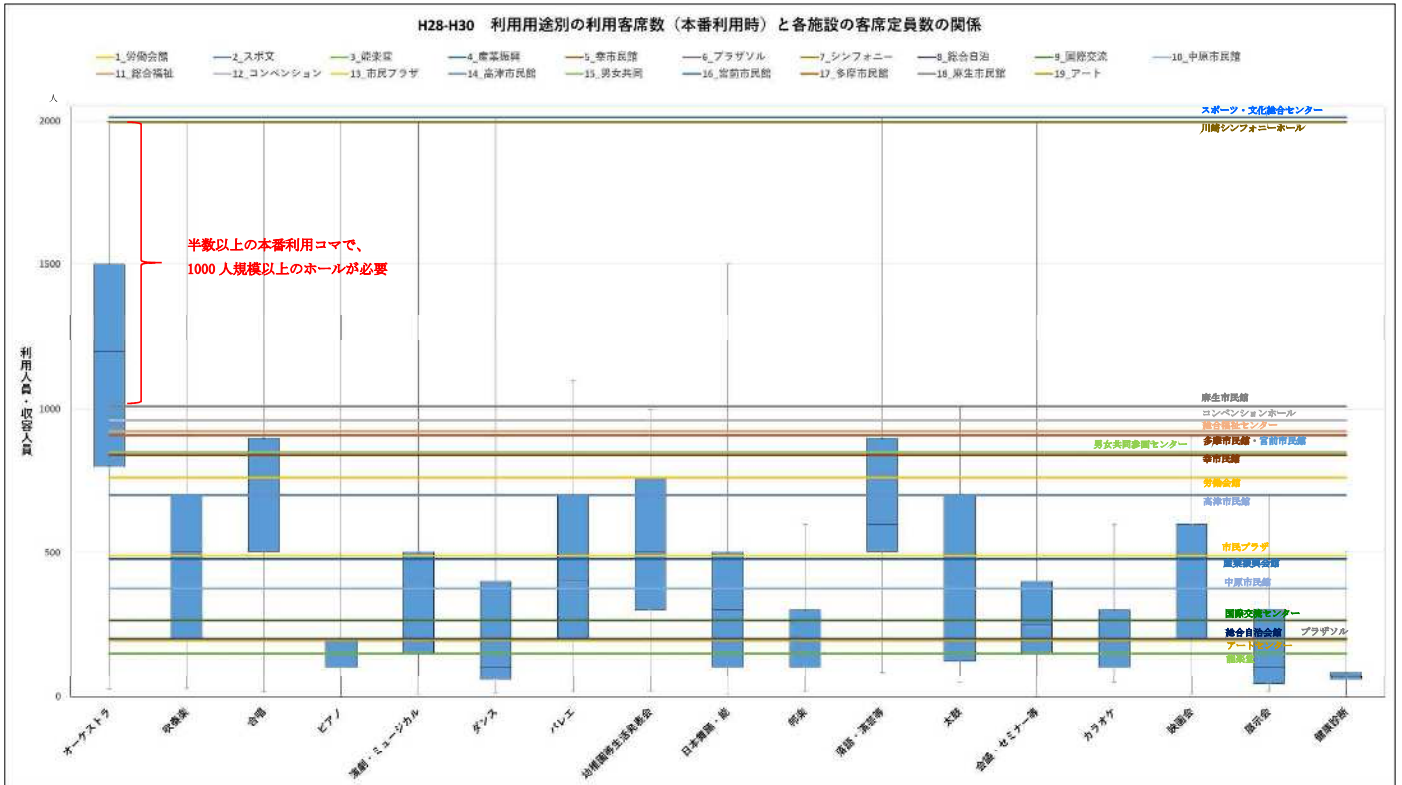
(2) 利用用途別の利用客席数の傾向

(1) の結果を見ると、利用用途によっては極端に大きい(または小さい)値がある場合があります。

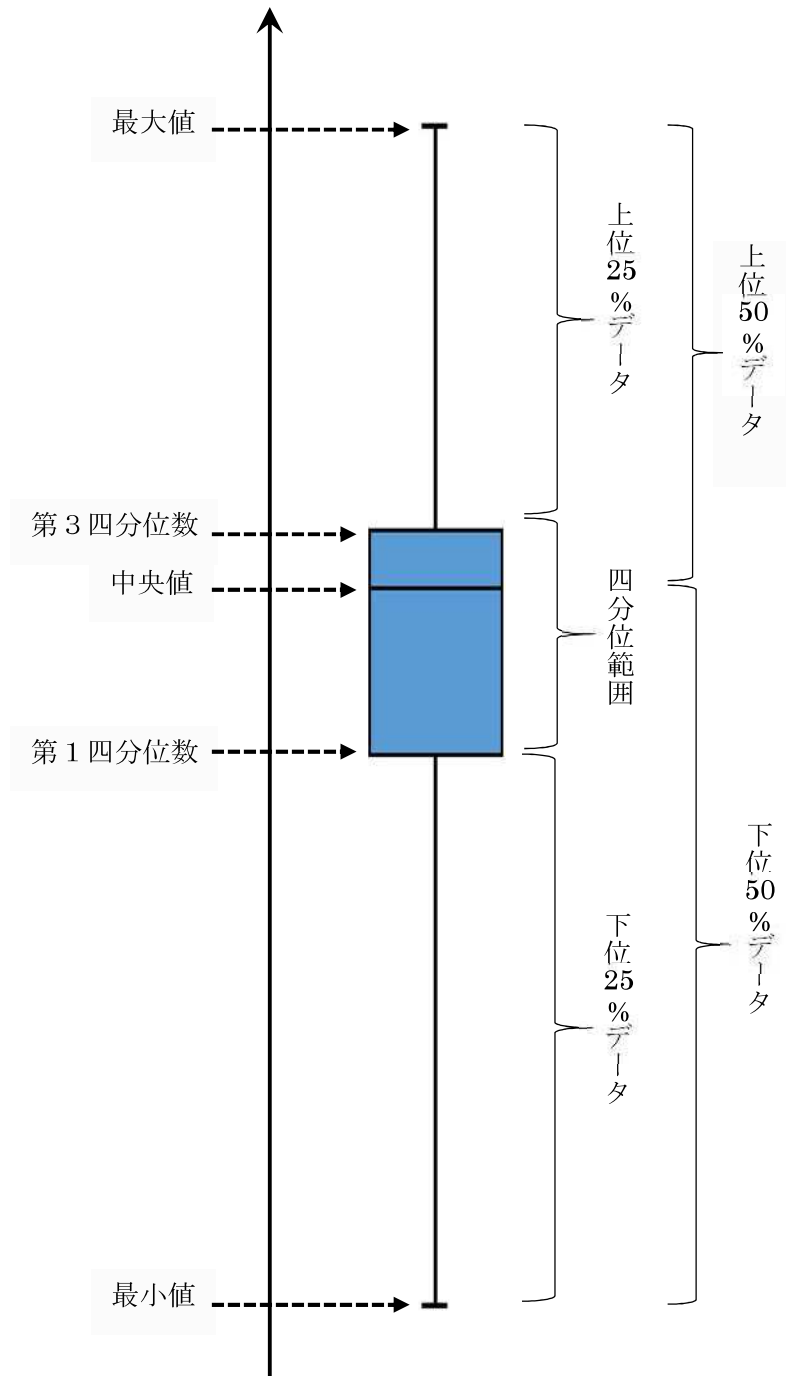
そこで、データのバラつき程度を考慮しながら、利用用途別の傾向を把握するために下表のとおり「箱ひげ図」で整理を行いました(「箱ひげ図」の見方については次ページ参照)。

オーケストラ、吹奏楽、バレエ、太鼓の様に同一用途における利用客席数にバラつきが大きい利用用途がある一方で、ピアノ、会議・セミナー等、健康診断の様に同一用途における利用客席数にバラつきが少ない利用用途があります。また、オーケストラでの利用(中央値1,200席利用コマ)においては、半数以上の本番利用コマで1,000人規模以上のホール(該当するホールはスポーツ・文化総合センターと川崎シンフォニーホールのみ)が必要となっていますが、オーケストラ以外の利用用途においては、半数以上の利用コマについては、客席定員700席の高津市民館以上の席数を有するホール(11施設が該当)の客席規模で対応可能となっていることがわかります。

このように、利用用途によって必要とする客席規模に違いがあることから、各ホールの役割分担検討においては、利用用途別の必要客席数の傾向を踏まえる必要があります。



参考 箱ひげ図の見方



- 中央値 : データを小さい順に並べた時、順位が真ん中となる値。
- 第1四分位数 : データを小さい順に並べた時、下から 1/4 の位置にある値。
- 第3四分位数 : データを小さい順に並べた時、下から 3/4 の位置にある値。
- 四分位範囲 : データの真ん中の 50% の分布であり、この範囲が狭ければデータのバラつきが少なく、広ければデータのバラつきが大きいことを示している。

1 1. 役割分担検討の具体的な進め方について

各ホールの役割分担のパターンは多岐にわたるため、検討にあたっては、各ホールの現状の特性（特定利用用途への対応可能性）を把握した上で、利用合理性や経済合理性の観点から検討の軸となる課題施設等を抽出し、「機能向上」、「機能縮小」、「規模拡大」、「規模縮小」など実現可能性のあるシナリオを複数パターン想定し検討することが必要となります。

さらに、機能・規模の見直し検討にあたっては、利用用途毎に施設間の需要移転の可能性を検証しつつ、コスト比較による客観的な評価を行うことが必要ですが、利用のしやすさ（交通アクセスの状況等）などを総合的に検証することが重要となります。

（1）設備面から見た各ホールの特定利用用途への対応可能性について

今後の改修等により機能向上や機能縮小を行う場合が想定されますが、効果的に検討を進めるために、設備面から各ホールの現状の特性（特定利用用途への“向き不向き”）を把握します。

具体的には、前述の各ホールの保有設備の状況を踏まえて、利用用途毎に利用頻度の高い設備の保有状況を整理し、保有率の状況から各ホールの対応可能性を相対的に評価します。

例えば、ダンスでの利用頻度が高い設備（○または◎となっている設備）は10設備あり（下図参照）、ホール毎にどのくらい充足しているのかを確認し、3段階で評価します。

		舞台機構				照明設備			音響設備				その他				
		バトン	音響反射板	緩機	黒幕類	白幕類	照明設備（舞台側）	照明設備（客席側）	調光操作卓	音響装置	録音再生器	音響調整卓	三点吊マイク	松羽目・竹羽目	平台	所作台	
音楽	オーケストラ	×	○	▲	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	×	
	吹奏楽	×	○	×	×	×	×	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	×	
	合唱	×	○	×	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	○	×	
	ピアノ	×	○	×	×	×	▲	▲	▲	○	▲	▲	○	×	×	×	
演劇・ダンス等	演劇・ミュージカル	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×
	ダンス	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	バレエ	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	幼稚園発表会	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×

本検討では、評価基準を以下の通り設定し、評価結果は次ページのとおりとなります。

ダンス利用の場合は、8つ以上充足している場合はA、5つ以上不足している場合はCという評価になります。

評価基準	
・利用頻度の高い設備が8割以上充足している	⇒ A
・上記または下記以外	⇒ B
・利用頻度の高い設備が半数以上不足している	⇒ C

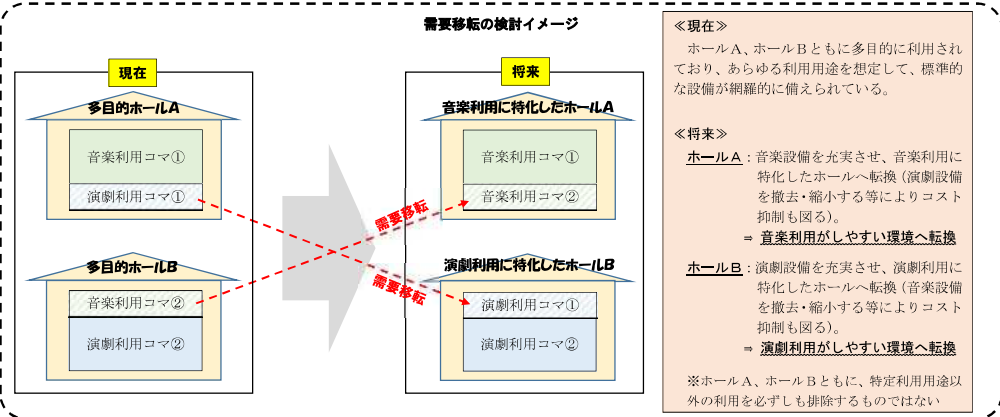
設備面から見た各ホールの特利用用途への対応可能性

施設	音楽				演劇・ダンス				伝統芸能など				その他				
	オーケストラ	吹奏楽	合唱	ピアノ	演劇・ミュージカル	ダンス	バレエ	幼稚園等生活発表会	日本舞踊・能	邦楽	落語	太鼓	会議・セミナー等	カラオケ	映画会	展示会	健康診断
川崎市立労働会館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
スポーツ・文化総合センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎能楽堂	C	C	C	C	B	B	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市産業振興会館	A	A	A	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
幸市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ラゾーナ川崎プラザソル	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎シンフォニーホール	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市総合自治会館	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市国際交流センター	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
中原市民館	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市総合福祉センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎コンベンションホール	C	C	C	C	B	B	B	B	B	A	B	B	A	A	A	A	A
川崎市民プラザ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
高津市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎男女共同参画センター	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	B	A	A
宮前市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
多摩市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
麻生市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎アートセンター	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A

上表を見ると、約半数の施設（19施設中9施設）で全ての用途の評価がA評価となっています。また、約9割の施設（19施設中17施設）で全ての用途の評価がB評価以上（A又はB）となっており、多くの施設で設備が充足している状況がわかります。

役割分担検討にあたっては、利用用途毎に他施設への需要移転の可能性を検証することになりますが、例えば、音楽利用がC評価となっている川崎能楽堂や川崎コンベンションホールに別ホールの音楽利用を誘導しようとする設備を大幅に拡充する必要が出てくる（音楽利用の移転元ホールは元々ある設備を撤去することになる）とともに、利用しにくい施設となる可能性があります。一方で、特定の利用用途に向いている施設に当該需要を移転していくことで、需要の無くなった設備を撤去することが可能となり、空きスペースを活用して必要な設備をより一層充実させるなど、利用者がより利用しやすい環境を整えることが可能となり、稼働率の改善もつなげられます。

そのため、役割分担検討では、現状、既に特定利用用途に向いている施設に当該利用用途の別ホールの需要移転ができるかどうかを優先的に検証することとします。



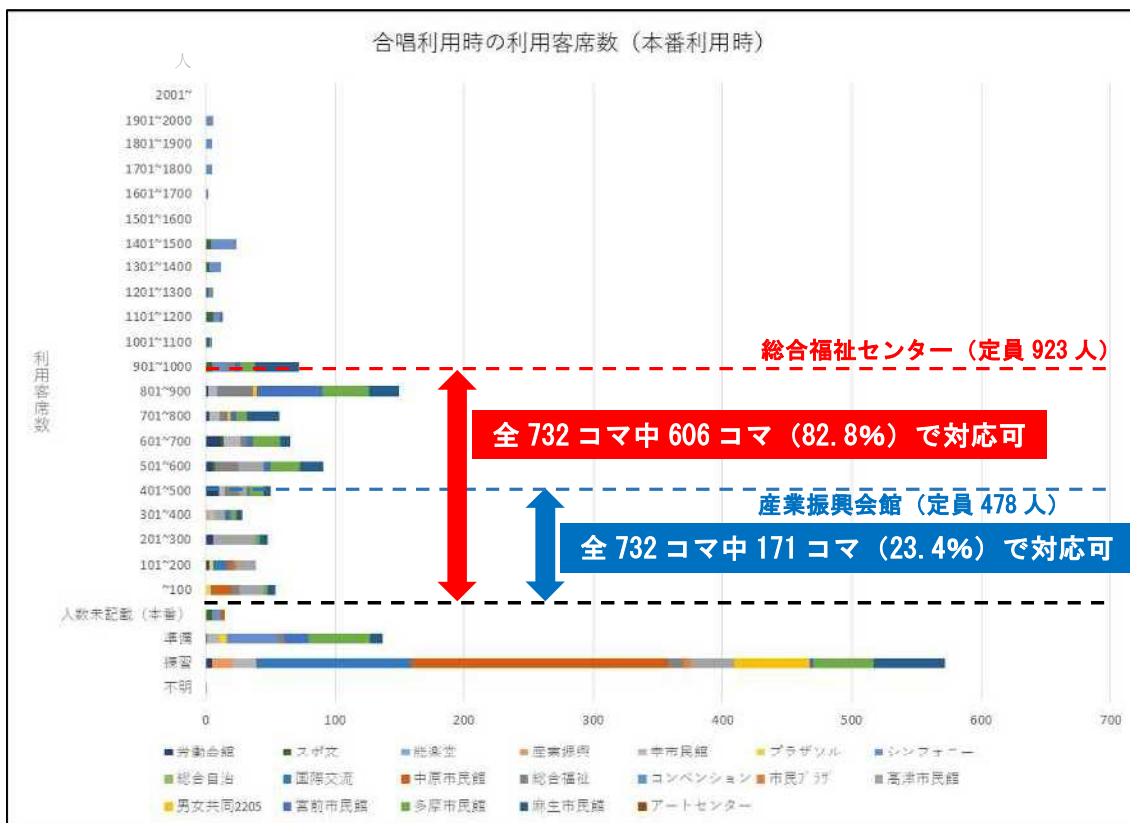
(2) 客席規模から見た各ホールの特定利用用途への対応可能性について

設備面と同様に、客席規模についても今後の改修・改築等により規模拡大や規模縮小を行う場合が想定されますが、効果的に検討を進めるために、客席規模の観点から各ホールの現状の特性（特定利用用途への“向き不向き”）を把握します。

具体的には、前述の各ホールの客席規模の状況を踏まえて、利用用途毎に対応可能な利用コマ数（平成 28～30 年度実績データ）の割合を整理し、各ホールの対応可能性を相対的に評価します。

例えば、合唱利用の場合、総合福祉センターでは実績の 8 割以上のコマに対応可能ですが、産業振興会館では、対応可能なコマ数は実績の 3 割に満たない状況（下図参照）となっており、客席規模の面だけで見ると産業振興会館より総合福祉センターの方が合唱利用に向いていることがわかります。

このように各ホールでの利用用途毎の対応可能コマ数の割合から各ホールの対応可能性を 3 段階で相対的に評価します。



本検討では、評価基準を以下の通り設定し、評価結果は次ページのとおりとなります。

評価基準	
・本番実績 8 割以上で対応可	⇒ A
・上記または下記以外	⇒ B
・本番実績の半数以上に対応できない	⇒ C

客席規模から見た各ホールの特定利用用途への対応可能性評価の結果

施設	音楽				演劇・ダンス				伝統芸能など				その他				
	オーケストラ	吹奏楽	合唱	ピアノ	演劇・ミュージカル	ダンス	バレエ	幼稚園等生活発表会	日本舞踊・能	邦楽	落語	太鼓	会議・セミナー等	カラオケ	映画会	展示会	健康診断
川崎市立労働会館	C	B	B	A	A	A	B	B	A	A	B	A	A	A	A	A	A
スポーツ・文化総合センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎能楽堂	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	A
川崎市産業振興会館	C	C	C	A	B	B	B	C	B	A	C	B	B	A	C	B	A
幸市民館	C	B	B	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A
ラゾーナ川崎プラザソル	C	C	C	B	B	B	C	C	C	B	C	B	C	B	C	B	A
川崎シンフォニーホール	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市総合自治会館	C	C	C	B	B	B	C	C	C	B	C	B	C	B	C	B	A
川崎市国際交流センター	C	C	C	B	B	B	C	C	C	B	C	B	B	B	C	B	A
中原市民館	C	C	C	A	B	B	C	C	B	B	C	B	B	A	C	B	A
川崎市総合福祉センター	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市コンベンションホール	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市民プラザ	C	C	C	A	B	B	B	C	B	A	C	B	B	A	B	B	A
高津市民館	C	B	B	A	A	A	B	B	A	A	B	B	A	A	A	A	A
川崎市男女共同参画センター	C	A	B	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A
宮前市民館	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
多摩市民館	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
麻生市民館	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市アートセンター	C	C	C	B	A	B	C	C	C	B	C	C	C	C	C	B	A

オーケストラ利用におけるA評価は2施設のみ(スポーツ・文化総合センター、川崎シンフォニーホール)となっており、オーケストラの本番利用の多くで1,000名規模以上の客席数が必要となっています。オーケストラ以外の用途に着目すると、全てA評価となっている施設は約4割(19施設中7施設)ある一方で、約4割の施設(19施設中8施設)で、用途の半数以上がB評価以下となっており、施設規模により利用用途が限定される傾向にあることがわかります。

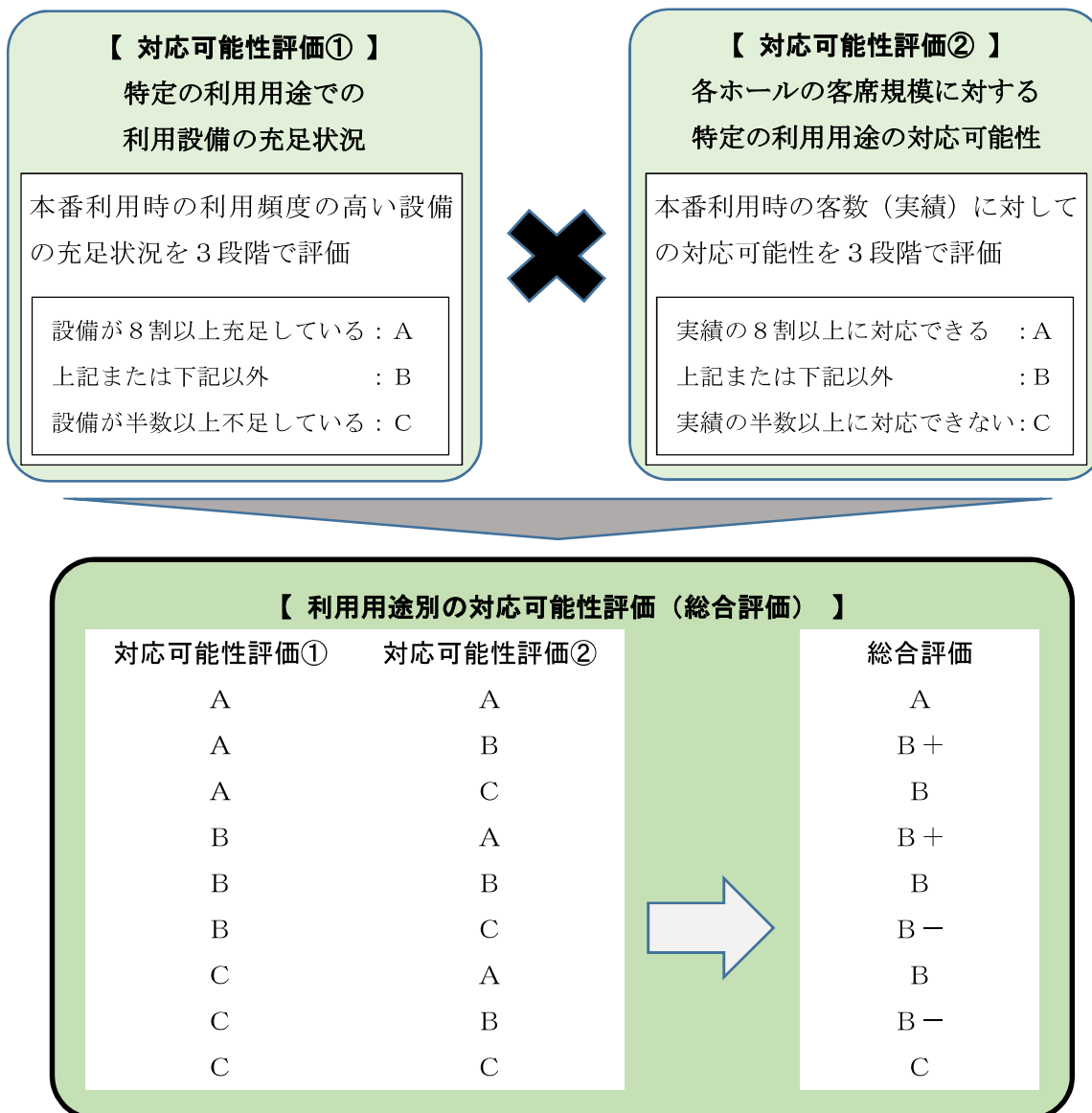
役割分担検討にあたっては、利用用途毎に他施設への需要移転の可能性を検証することになりますが、例えば、バレエ利用がC評価となっている川崎市総合自治会館や川崎市国際交流センターにバレエ利用を誘導しようとするハード面で客席数を増やす必要が出てくることから建替えや大規模な改修が必要となります。

そのため、設備面と同様に客席規模から見た役割分担検討においても、現状のホールで既に特定利用用途に向いている施設に当該利用用途の別ホールの需要移転ができるかどうかを優先的に検証することとします。

(3) 2つの対応可能性評価を踏まえた総合評価の考え方について

前述のように、各ホールの特定利用用途への対応可能性（向き不向き）には、設備面と客席規模の2つの視点があるため、2つの側面からの各ホールの現状の特性（特定利用用途への対応可能性）を総合的に捉える必要があります。

そこで、本検討では、以下の通り2つの評価結果を掛け合わせて総合評価を行うことにします。



総合評価の結果を相対的に確認し、「〇〇ホールは合唱には向いているが、演劇には向いていない」など、現在の各ホールに向いている利用用途の傾向を把握します。

実際の評価結果は次ページのとおりとなります。

2つの対応可能性評価を踏まえた総合評価の結果

施設	音楽				演劇・ダンス				伝統芸能など				その他				
	オーケストラ	吹奏楽	合唱	ピアノ	演劇・ミュージカル	ダンス	バレエ	幼稚園等生活発表会	日本舞踊・能	邦楽	落語	太鼓	会議・セミナー等	カラオケ	映画会	展示会	健康診断
川崎市立労働会館	B	B+	B+	A	A	A	B+	B+	A	A	B+	A	A	A	A	A	A
スポーツ・文化総合センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎能楽堂	C	C	C	C	B-	B	B-	B-	B	B	B	B	B	B	B	B+	A
川崎市産業振興会館	B	B	B	B+	B+	B+	B+	B	B	A	B	B+	B+	A	B	B+	A
幸市民館	B	B+	B+	A	A	A	A	A	A	A	B+	A	A	A	A	A	A
ラゾーナ川崎プラザソル	B-	B-	B-	B	B+	B+	B	B	B-	B+	B	B+	B	B+	B	B+	A
川崎シンフォニーホール	A	A	A	A	A	A	A	A	B+	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市総合自治会館	B-	B-	B-	B	B+	B+	B	B	B-	B+	B	B+	B	B+	B	B+	A
川崎市国際交流センター	B-	B-	B-	B	B+	B+	B	B	B-	B+	B	B+	B+	B+	B	B+	A
中原市民館	B	B	B	B+	B+	B+	B	B	B+	B+	B	B+	B+	A	B	B+	A
川崎市総合福祉センター	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市コンベンションホール	C	B	B	B	B+	B+	B+	B+	B+	A	B+	B+	A	A	A	A	A
川崎市民プラザ	B	B	B	A	B+	B+	B+	B	B+	A	B	B+	B+	A	B+	B+	A
高津市民館	B	B+	B+	A	A	A	B+	B+	A	A	B+	B+	A	A	A	A	A
川崎市男女共同参画センター	B	A	B+	A	A	A	A	A	B+	A	B+	A	A	A	B+	A	A
宮前市民館	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
多摩市民館	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
麻生市民館	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎市アートセンター	B-	B-	B-	B	B	B+	B	B	B-	B+	B	B	B	B	B	B+	A

オーケストラ以外の用途に着目すると、約3割の施設（19施設中5施設）で全てA評価となっており、約5割の施設（19施設中10施設）でB+評価以上（A又はB+）となっており、これらの施設においては多目的な利用が可能となっています。これらの施設は、需要の受け入れ先としての可能性が相対的に高い可能性があります。

一方で、音楽利用に着目すると、用途の半分以上がB評価以下（B、B-又はC）の施設が約5割（19施設中9施設）となっており、音楽利用の需要移転先は限定的になる可能性があります。

役割分担検討にあたっては、これらの各施設の傾向（特定利用用途への向き不向き）を踏まえた上で検討を進めることが重要になります。

(4) 具体的な検討の進め方について

特定の利用用途に向いているホールについては、現在の設備等を活かしながら改修等を通じた機能分担を行うことが有効であることから、前述の総合評価の結果（利用用途への向き不向き）を念頭に置きつつ、以下のステップで検討を進めます。

STEP 1 課題施設の抽出

役割分担検討は、各ホールの特定利用用途への対応可能性を踏まえた上で行うことが必要ですが、想定される役割分担のパターンを比較し評価する上では指標が必要となります。

また、理論上、検討可能な役割分担パターンは膨大な数になることから、検討の軸となる課題施設を抽出することが必要です。

そこで、前述のホールの利用実態を踏まえ、利用合理性（より効果的に使われているか）と経済合理性（ホールを建設・維持・運営していく上でどの程度コストが抑えられているか）の多寡に着目し、指標を設定します。

ア 指標①『利用合理性』

前述のホールの利用実態を踏まえると、利用合理性の観点では、稼働率の低さと客席利用率の低さが課題として挙げられます。また、客席を利用しない練習利用については必ずしもホールを利用する必要がないことが考えられます。

そこで、利用合理性を測る指標として、『本番の稼働率【本番での利用コマ数÷利用可能コマ数】』を設定し、各ホールの指標の多寡から検討の軸となる課題施設を抽出します。

利用合理性：本番の稼働率
【本番での利用コマ数÷利用可能コマ数】

なお、本番の利用コマ数には、本番前のリハーサルや準備のコマ数を含めるものとします。

イ 指標②『経済合理性』

前述のホールの利用実態を踏まえると、経済合理性の観点では、建設コスト、年間運営コスト、維持管理コストの高さなどが課題として挙げられます。また、施設規模の大きな施設ほどコストが高い傾向にありますが、同時に、施設規模の大きな施設ほど観客としての多くの市民を呼び込める施設となり、より多くの市民サービスを提供できる可能性があると言えます。

そこで、経済合理性を測る指標として、利用者一人あたりのコストの多寡の観点から、『客席利用者あたりの年間予測コスト【(年間予測支出－年間予測収入)÷年間客席利用者数】』を設定し、指標が低いホールを検討の軸となる課題施設として抽出（コストが低いほど指標を高く設定）します。

経済合理性：客席利用者あたりの年間予測コスト
【(年間予測支出－年間予測収入) ÷ 年間客席利用者数】

なお、施設毎に築年数や老朽化の状況が異なることから、コスト算出にあたっては、現在の機能・規模を維持した場合に必要な各ホールの今後 60 年間の予測コストを算出します。

資産マネジメント第 3 期実施方針では、庁舎等建築物の目標耐用年数を 60 年以上としていることから、コスト算出においては、舞台・舞台以外（屋根・外壁・機械設備・電気設備等）のコストを解体費、建設費、計画修繕費、維持管理費の 4 つの項目に分類し、各施設を 60 年間使用した後に現状の規模・機能に建替を行うこととして機械的に算出することとします。

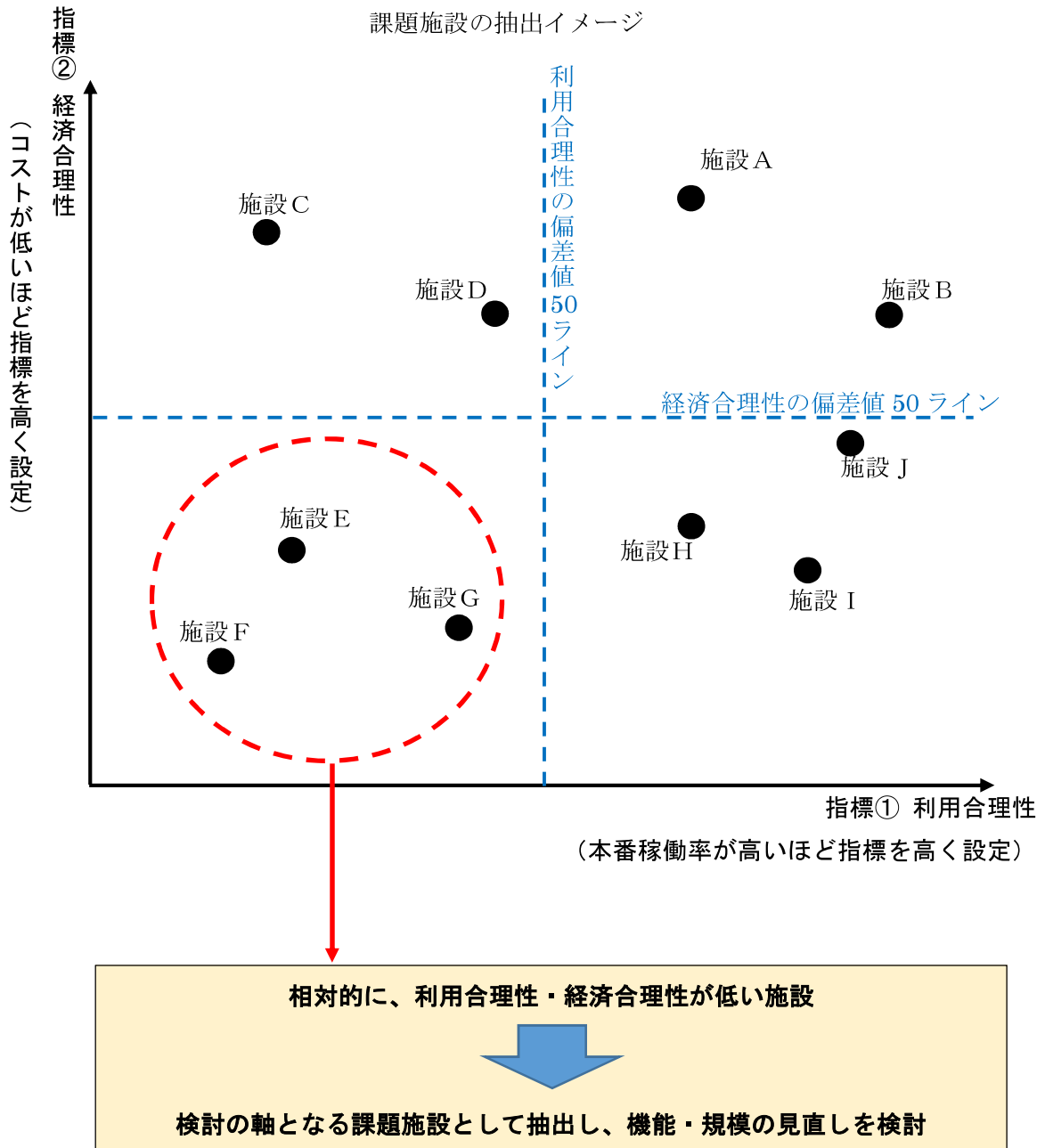
なお、ホール以外の諸室との複合施設については、施設全体の金額を算出した上で、施設全体の面積に対するホール部分の面積により按分して積算することを基本とします。

各項目のコスト算出方法例

項目	内容	算出方法
解体費	現建物の解体費	国土交通省大臣官房営繕部監修の「建築物のライフサイクルコスト」等から算出
建設費	現建物の再建築費	取得価格から建設工事費デフレータを勘案して算出
計画修繕費	舞台	過去実績や見積もりから単価を設定。更新時期はメーカー推奨年数を根拠に設定
	舞台以外	国土交通省大臣官房営繕部監修の「建築物のライフサイクルコスト」等から算出
維持管理費	人件費、光熱水費、保守管理費等	平成 28～30 年度の実績の平均値より算出
利用料収入	ホールに係る利用料金収入	平成 28～30 年度の実績の平均値より算出

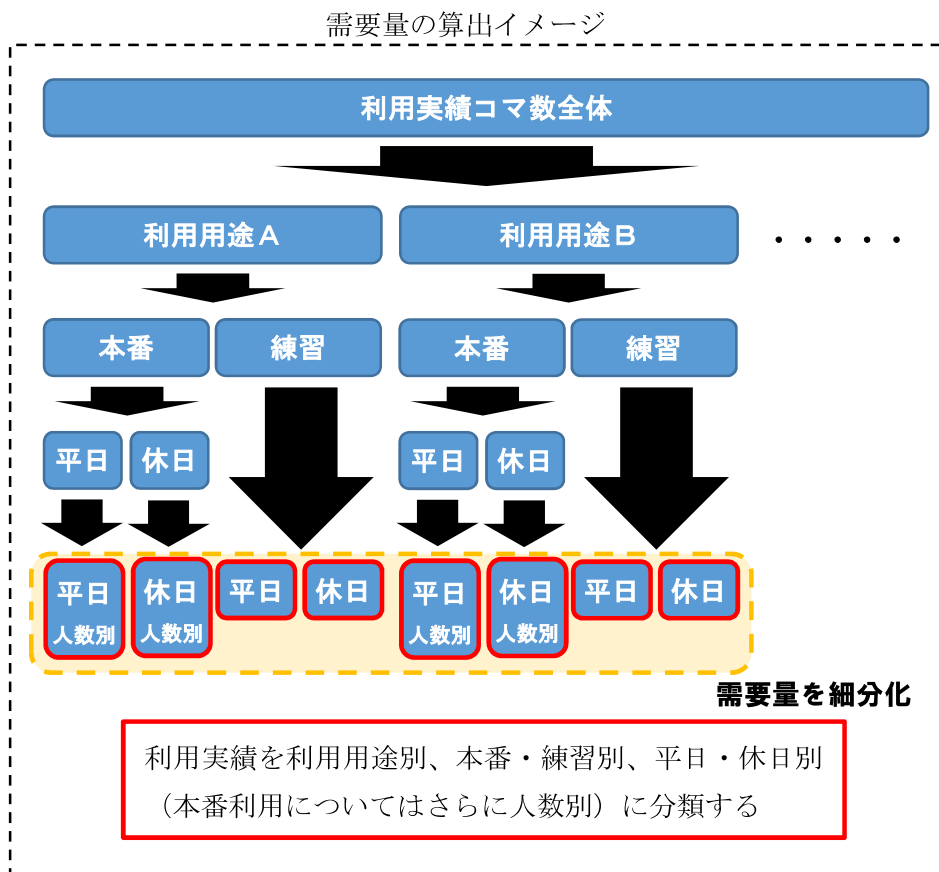
2つの指標の算出後、それぞれの指標が相対的に他の施設より低い施設を検討の軸となる課題施設とし、機能・規模の見直しを検討します。

なお、機能・規模の見直しにあたっては、利用用途毎に、他施設への需要移転の可能性を検証しながら進めるものとします。



STEP 2 課題施設の需要量の算出

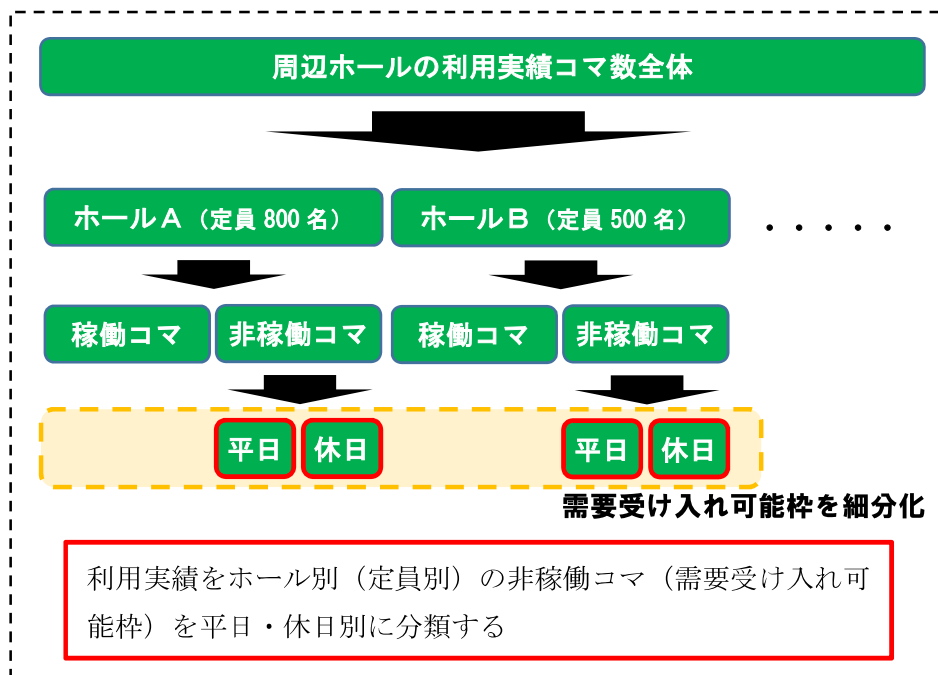
利用実績から、利用用途別、本番・練習別、平日・休日別の利用コマ数（≒需要量）に分類し、本番利用については、さらに利用人数別（利用客席数別）にコマ数（≒需要量）を分類します。



STEP 3 各ホールの需要受け入れ可能枠の算出

移転候補先の受け入れ枠を把握するため、利用実績から各ホールの需要受け入れ可能枠（≒非稼働コマ数）を平日・休日別に整理します。なお、休館日や保守点検日などは非稼働コマには含みません（算定上は稼働コマ扱いとします）。

需要受け入れ可能枠の算出イメージ



STEP 4 課題施設から課題施設以外のホールへの需要移転可能性検討

STEP 2 で算出した需要量と STEP 3 で算出した需要受け入れ可能枠のマッチングを実施し、実現可能な検討パターンを抽出します。

このとき、実現可能な需要移転パターンとなるように、以下の条件に基づき検討を進めるものとします。

- 条件① 全ての利用客を収容する必要があることから、需要移転先の客席定員数が移転するコマの客席利用人数を下回らない
- 条件② 利用者の利便性を考慮すると、現在利用している施設が有する設備と同等以上の設備を有する施設へ移転する必要があることから、需要移転先の設備の充足状況が移転元の充足状況を下回らない

なお、全ての需要を移転させることを優先して検討を行います。全ての需要が移転できない場合であっても、課題施設の機能・規模の適正化の可能性を検証することとします。検討のイメージは次のとおりです（P172 にも需要移転イメージを掲載しています）。

課題施設の需要移転検討イメージ

利用用途	移転先 観劇施設A (定員 400席)						移転先 観劇施設B (定員 800席)											
	設備 適性	需要量					合計	設備 適性	需要量							合計		
		～100	101～200	201～300	301～400	計			～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501～600	601～700		701～800	計
音楽	オーケストラ	A	0	2	0	0	2	A	4	0	3	0	4	0	0	0	0	11
	吹奏楽	A	2	0	0	1	3	A	3	0	4	0	3	2	1	0	0	13
	合唱	A	0	1	0	0	1	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ピアノ	A	24	27	12	7	70	A	6	0	16	2	5	0	0	0	0	29
演劇・ダンス	演劇・ミュージカル	A	2	8	0	0	10	A	4	0	3	0	4	0	0	0	0	11
	ダンス	A	17	5	2	0	24	A	9	0	18	2	3	0	1	1	0	34
	バレエ	A	1	2	2	5	10	A	1	0	0	0	2	1	0	0	4	
	幼稚園等生活発表会	A	1	1	1	1	4	A	3	0	6	2	2	0	0	0	15	
	日本舞踊・能	A	2	1	0	0	3	B	2	0	0	1	1	1	0	0	13	
伝記芸能等	邦楽	A	0	0	0	0	0	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	落語	A	0	0	0	0	0	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	太鼓	A	0	0	0	0	0	A	7	0	13	4	9	0	1	0	34	
	会議・セミナー等	A	4	3	5	0	12	A	0	0	4	0	0	0	0	0	4	
その他	カラオケ	A	0	0	2	2	4	A	4	0	3	0	4	0	1	0	12	
	映画会	A	0	0	0	0	0	B	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
	展示会	A	0	0	0	0	0	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康診断	A	2	0	0	0	2	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

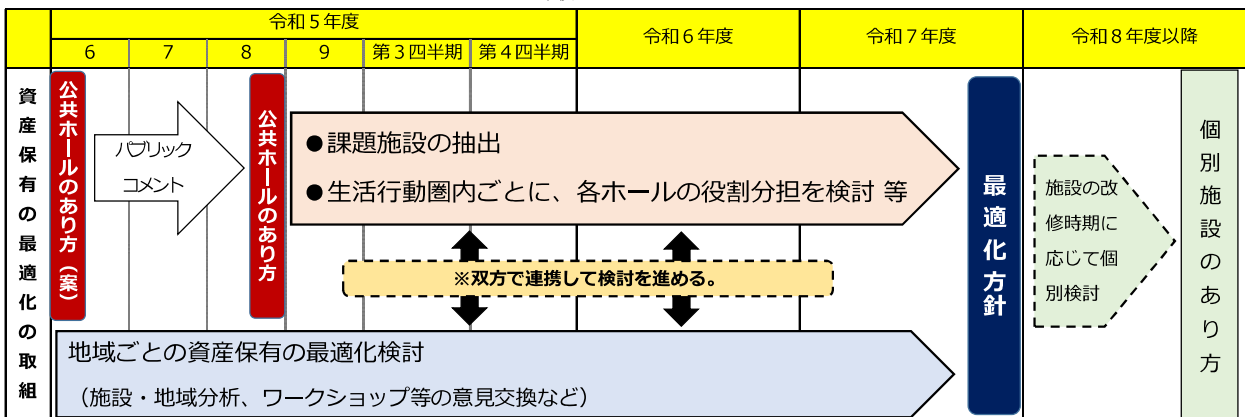
利用用途	移転候補先 ホールa (定員 300席)					移転候補先 ホールb (定員 400席)					移転候補先 ホールc (定員 500席)					移転候補先 ホールd (定員 900席)					
	設備 適性	ホールA		ホールB		設備 適性	ホールA		ホールB		設備 適性	ホールA		ホールB		設備 適性	ホールA		ホールB		
		移転 可否	移転 人数	移転 可否	移転 人数		移転 可否	移転 人数	移転 可否	移転 人数		移転 可否	移転 人数	移転 可否	移転 人数		移転 可否	移転 人数	移転 可否	移転 人数	
音楽	オーケストラ	B	不可			A	可	2			A	可			A	可					
	吹奏楽	B	不可			A	可	3			A	可			A	可					
	合唱	B	不可			A	可	1			A	可			A	可					
	ピアノ	B	不可			B	不可		不可		A	可	7			A	可				移転可能
演劇・ダンス	演劇・ミュージカル	A		10							A	可				A	可	3			4
	ダンス	A		22							A	可				A	可	2			5
	バレエ	A		3							A	可				A	可	2			4
	幼稚園等生活発表会	A		1							A	可				A	可	4			5
伝記芸能等	日本舞踊・能	B	不可								A	可	3			A	可				8
	邦楽	A									A	可				A	可				0
	落語	A									A	可				A	可				0
	太鼓	A									A	可			9	A	可				0
その他	会議・セミナー等	A		8							A	可	5			A	可				0
	カラオケ	A									A	可	3			A	可				0
	映画会	A									A	可				A	可	2			0
	展示会	A									A	可				A	可				0
健康診断	A		2							A	可				A	可					0

(5) 今後の取組の進め方について

将来的な各ホールの具体的な機能等については、今後取組を進める「地域ごとの資産保有の最適化検討」と連携を図りながら、前述までのステップを経て、個別施設ごとに詳細な検討を進めるものとします。

なお、取組の推進にあたっては、交通アクセスのしやすさなど利用者の利便性を考慮するとともに、利用者の御意見を丁寧に伺いながら進めるものとします。

今後のスケジュール



参考資料1 ホールのあり方検討専門部会

公共ホールのあり方をとりまとめるにあたり、学識者等による見識や市民意見を反映するため、7名の委員で構成する附属機関「川崎市公共施設マネジメント推進委員会 ホールのあり方検討専門部会」を設置し、現地見学会を含め7回にわたる審議を行いながら進めました。

委員名簿（50音順）

氏名	役職等
李 祥準	関東学院大学 建築・環境学部 准教授
稲生 信男	早稲田大学 社会科学総合学術院 教授
勝又 英明 ◎	東京都市大学 名誉教授
貞包 知也	公募委員（～R5.3.31）
佐藤 敦子	高崎経済大学 経済学部国際学科 准教授
佐藤 忠	公益財団法人川崎市文化財団 新百合トウェンティワンホール館長（～R5.3.31） 公益財団法人川崎市文化財団 新百合トウェンティワンホール勤務（R5.4.1～）
関 昭三	川崎市総合文化団体連絡会 理事

◎：部会長

～これまでの開催経過～

《第1回検討専門部会 令和3年9月2日開催》

【主な検討内容】

- ・部会設置の趣旨について
- ・検討の内容と進め方について

《ホール見学会 令和3年12月21日開催》

- ・高津市民館、川崎市男女共同参画センターのホール見学

《第2回検討専門部会 令和4年2月1日開催》

【主な検討内容】

- ・各施設の利用状況等について（中間報告）
- ・各ホールで想定する演目と他ホールでの対応可能性
- ・市内ホールの配置状況等について
- ・各施設の改修予定について
- ・補助金等適正化法について

《第3回検討専門部会 令和4年5月6日開催》

【主な検討内容】

- ・各施設の利用状況等について
- ・適正配置検討にあたってのエリア設定について
- ・ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方について

《第4回検討専門部会 令和4年10月25日開催》

【主な検討内容】

- ・役割分担検討にあたっての条件整理について
- ・役割分担検討の具体的な進め方について

《第5回検討専門部会 令和5年2月16日開催》

【主な検討内容】

- ・各ホールの対応可能用途について
- ・課題ホールの抽出について
- ・役割分担の検討について

《第6回検討専門部会 令和5年5月1日開催》

【主な検討内容】

- ・公共ホールのあり方（素案）について

参考資料2 利用団体等へのヒアリング等について

令和3年12月～令和4年3月にかけて、文化芸術団体や利用団体等、計20団体へホールの使い方などについて、ヒアリングやアンケートを実施しました。また、令和4年6月～7月にかけて、「公共ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方(案)」について、文化芸術団体や利用団体、民間ホール運営者等、計23団体へ説明及び意見交換を実施しました。

主に、立地・交通利便性(駅からの距離が近いこと)、舞台の広さ(舞台が広いこと)、搬入・搬出のしやすさ、楽屋の広さと数が重要であるという御意見、また、トイレの使いにくさや数が少ない(特に女性用)という御意見が多くありました。

客席規模については、1,000席規模のホールを求める御意見があった一方で、300席程度の中小規模ホールを求める御意見もあり、利用用途により意見にバラつきがありました。

舞台設備については、音楽利用の団体からは音響反射板を整備してほしいという御意見があった一方で、現在の設備で十分であるという御意見、逆に過剰であるという御意見もありました。

その他には練習場所が不足しているという御意見もありました。

利用料金については、利用団体からは使いやすい利用料金となっているという御意見があった一方で、民間ホール運営者からは公共ホールは利用料金が安すぎる、利用料金の観点で公共ホールと天秤にかける利用者があり、困ることがあるという御意見がありました。

公共ホールの役割分担の検討については、利用用途を明確にしたホールが整備され、選択できるようになるのがよいなど、本市の検討の方向性に肯定的な御意見が多く聞かれました。

項目	主な意見（文化芸術団体・利用団体）
公共ホールの 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●中途半端な多目的ホールではなく、<u>利用用途を明確にしたホールが必要</u>。様々な意見が出ると思うが、自信を持って、ホールの役割分担を決めてほしい。（合唱関係 他同趣旨2団体） ●<u>利用用途を明確にしたホールが整備され、選択できるようになるのがよい</u>。（関係団体）
配置状況	<ul style="list-style-type: none"> ●集客にも影響があるため、<u>立地・交通利便性（駅からの距離）が重要</u>。（関係団体 他同趣旨14団体）
舞台	<ul style="list-style-type: none"> ●高津市民館はステージが狭くなったため、本番利用ができなくなったので、<u>客席数だけではなく、ステージの広さを考慮すべき</u>。（オーケストラ関係 他同趣旨5団体） ●演者の待機場所などとして、<u>舞台袖が広いことが重要</u>。（演劇関係 他同趣旨4団体）
客席	<ul style="list-style-type: none"> ●300人を超える集客は少ないため、<u>小中規模ホールがほしい</u>。（演劇関係 他同趣旨6団体） ●客席が全て埋まる大規模な発表会もあり、<u>1000席規模のホールが必要</u>。（バレエ関係他同趣旨3団体）
舞台設備	<ul style="list-style-type: none"> ●使い方のわからない設備もあり、<u>オーバースペックのように感じる</u>。（和太鼓関係） ●<u>音響反射板が一部不足しており、本番利用ができないため、整備してほしい</u>。（オーケストラ関係 他同趣旨1団体）
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ●トイレ休憩の際、特に女子トイレの待ち時間が長くなっており、<u>トイレの数が少ない</u>。（文化芸術団体 他同趣旨4団体） ●<u>トイレが旧式（和式）で使いづらい</u>。（文化芸術団体 他同趣旨4団体）
楽屋等	<ul style="list-style-type: none"> ●講師控室及び事務局作業室として、<u>楽屋の広さと数が重要</u>。（講習関係 他同趣旨5団体）
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ●減免もあり、<u>使いやすい利用料金になっている</u>。（和太鼓関係 他同趣旨9団体）
搬入・搬出	<ul style="list-style-type: none"> ●搬入・搬出ができず、本番利用ができなかったことがあり、<u>搬入・搬出のしやすさが重要</u>。（演劇関係 他同趣旨7団体）
練習会場	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>練習会場が不足している</u>。（オーケストラ関係 他同趣旨4団体）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●追加料金でも構わないので<u>終了時間をフレキシブルに対応してほしい</u>。（バレエ関係他同趣旨1団体） ●<u>駐車場は台数と料金の安さが重要</u>。（和太鼓関係 他同趣旨3団体）

項目	主な意見（民間ホール運営者）
公共ホールの 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●何でもできるホールを整備していくより、<u>役割分担を考えた方がよい</u>と思う。（他同趣旨2事業者）
配置状況	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>川崎市のホールは多すぎると思う</u>。（他同趣旨1事業者） ●<u>200～300席程度の良いホールがない</u>。
民間ホールの 利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ●特に平日の稼働率が低く、<u>稼働率を上げていきたい</u>。（他同趣旨3事業者） ●人件費や光熱水費などの運営コストを考えると、<u>稼働率を上げると収支が悪化する可能性がある</u>。（他同趣旨1事業者）
市との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●民間ホールへの利用者の誘導など、<u>市との連携は歓迎する</u>。（他同趣旨4事業者）
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ●公共ホールの利用者としても、<u>利用料金は安すぎると思う</u>。（他同趣旨4事業者） ●公共ホールの予約が取れたため、民間ホールを急遽キャンセルするなど、<u>公共ホールと天秤にかける利用者があり、困ることがある</u>。

参考資料3 指定管理者等へのヒアリング等について

令和3年11月～令和4年1月にかけて、各ホールの施設管理者（指定管理者等）に使いやすさなどについて、ヒアリングやアンケートを実施しました。

約5割の施設（19施設中9施設）で築30年以上となっていることもあり、施設の課題として、バリアフリー（舞台までの経路に段差がある等）、照明や音響設備等の老朽化、トイレの老朽化や数が少ない（特に女性用）などの御意見が多くありました。

機能面としては、舞台が狭く使いづらいという御意見が多くありました。設備は不足しているという御意見は少なく、逆に使用していない設備があるという御意見がありました。

客席規模については、適切・不足・過剰と御意見にバラつきがありました。

その他として、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に利用者からWEB配信の要望が多く、ネット環境の整備が必要との御意見が多くありました。

運用面については、市内利用者が優先予約となっていない、本番利用者が優先予約となっていないことを課題として挙げる施設がありました。また、本番利用は本番に向けた準備もあることから、複数コマを連続で確保する必要があり、練習利用が間に入ると本番利用ができなくなってしまうことがあり、収益面での課題があるとの御意見がありました。

その他、立地に関して、駅から近い施設ほど運営上優位性のある施設であると捉える管理者が多く、立地が重要であるという御意見が多くありました。

項目	主な意見（施設管理者・指定管理者等）
配置状況	● <u>立地条件が重要</u> （駅からの距離など）。（同趣旨 1 1 件）
舞台	● <u>舞台、舞台袖が狭くて使いづらい</u> 。また、バックヤードが狭く、待機場所がない。（同趣旨 9 件）
客席	●利用用途を踏まえると、現在の <u>客席の規模は適切</u> 。（同趣旨 3 件） ● <u>客席数が少ない</u> 。（1 件） ● <u>客席数が多い</u> 。小中規模が使いやすい。（1 件）
舞台設備	●設備のデジタル化や LED 化が進んでいない。 <u>故障、破損なども多く、設備の老朽化が課題</u> 。（同趣旨 8 件） ● <u>使っていない設備や設備機能がある</u> 。使っていない設備は老朽化によるリスク、またスペースの有効活用のためにも撤去したい。（同趣旨 4 件） ●新型コロナウイルス感染症拡大以降、WEB 配信が多くなっており、 <u>ネット環境の整備が重要</u> 。（同趣旨 4 件）
トイレ	● <u>トイレが使いづらく、数が少ない</u> （特に女性用）。（同趣旨 4 件）
楽屋等	● <u>楽屋の数が少なく、狭い</u> 。（同趣旨 2 件） ● <u>楽屋と舞台の距離が重要</u> （遠くて使いづらい）。（同趣旨 2 件）
搬入・搬出	●搬入方法が人荷用エレベーターしかなく搬入がしにくいいため、 <u>搬出入のしやすさが重要</u> 。（同趣旨 4 件）
バリアフリー	●客席から舞台までの動線にスロープが無く、段差無しで舞台まで上がれない。バリアフリーへの対応が重要。（同趣旨 6 件）
運用面	● <u>市内優先予約が無く、市内の方が抽選に外れることがある</u> 。（1 件） ●リハーサルだけ（本番は他のホール）の利用が多くなっている。（1 件） ●練習利用も本番利用もフラットな抽選となっており、 <u>本番利用者が抽選に外れることがある</u> 。運営の立場としても、本番利用は設備利用料も見込めるが、 <u>練習利用は光熱水費・人工等を考えると、収支がマイナスになってしまう</u> 。（1 件）
その他	● <u>駐車場の広さが重要</u> （利用者から駐車場が狭い、もしくは広くて良いという意見がある）。（同趣旨 4 件） ●防音性能が悪く、利用用途によっては他の会議室も予約してもらう必要がある。 <u>防音性能が重要</u> 。（同趣旨 5 件）

参考資料4 各ホールの地域防災計画上の位置付け

本市では、災害対策基本法第42条の規定に基づく地域防災計画として、震災対策編、風水害対策編、都市災害対策編の3編を策定しています。この中で、公共ホールのあり方検討の対象としている19施設において、帰宅困難者用一時滞在施設や広域避難場所などに指定されている施設もあります。今後、ホールのあり方を踏まえた具体的な検討を進める上では、地域防災計画上の位置付けを踏まえ、代替施設の有無などを考慮していきます。

●地域防災計画上の主な位置付け

施設名	避難所 補完施設	広域 避難場所	帰宅困難者用 一時滞在施設	川崎市災害 ボランティア支援センター	区災害 ボランティアセンター
労働会館	●				●
スポーツ・文化 総合センター			●		
能楽堂					
産業振興会館			●		
幸市民館			●		●
ラゾーナ川崎 プラザソル					
川崎シフォニーホール					
総合自治会館			●		●
国際交流センター					
中原市民館	●		●		●
総合福祉センター	●		●	●	●
コンベンションホール			●		
市民プラザ		●	●		
高津市民館	●		●		
男女共同参画 センター			●		●
宮前市民館	●		●		●
多摩市民館	●		●		●
麻生市民館	●		●		●
アートセンター			●		

「避難所補完施設」

住民が容易に避難できるよう地域の実情に応じて、緊急性や危険度から判断の上、避難所を補完するものとして、一時使用する施設。

「広域避難場所」

震災またはその二次災害等により、広域にわたって大きな被害が予測される場合、被害から逃れるための場所。

「帰宅困難者用一時滞在施設」

大地震の発生により鉄道等の公共交通機関が運行停止となり、帰宅が困難となって、行きどころのない人を一時的に受け入れる施設。

「川崎市災害ボランティア支援センター、区災害ボランティアセンター」

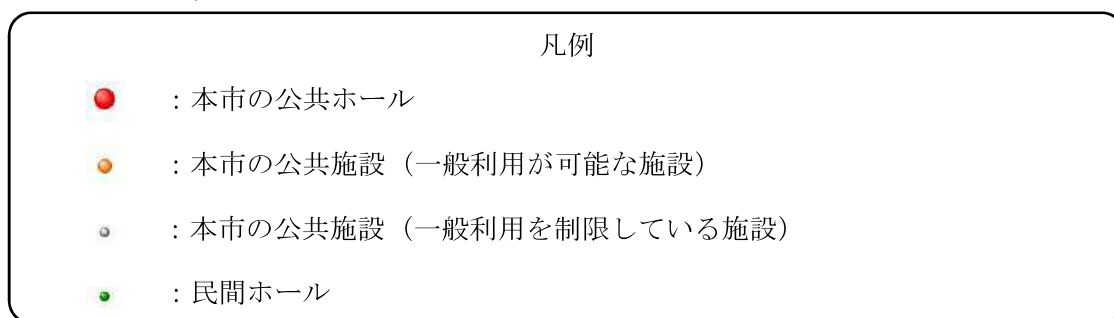
災害ボランティアの活動調整等を実施する組織の設置が必要と認めるとき、ボランティアの活動拠点として設置する。

参考資料5 各ホール周辺の公共施設の配置状況

公共ホールの利用状況を見ると、練習利用や少人数での利用など、ホール以外でも対応可能と思われる利用があります。

今後、将来的な各ホールの具体的な機能や配置等の検討を進めていく上では、他の公共施設との連携を視野に入れる必要があることから、各ホール周辺の公共施設（各ホールから半径2 km 圏内に位置する公共施設）の配置状況等について整理を行いました。

19 の公共ホールから半径2 km 圏内に位置する公共施設は 114 あり（区役所、学校施設等を除く）、利用者の年齢や居住地の制限がある場合があるものの、ほとんどの施設（114 施設中 111 施設）で一般利用が可能であり、ホールで利用されている用途での利用が可能な施設もあります。また、利用制限がある諸室の多くは、防音仕様となっていないことが理由となっています。

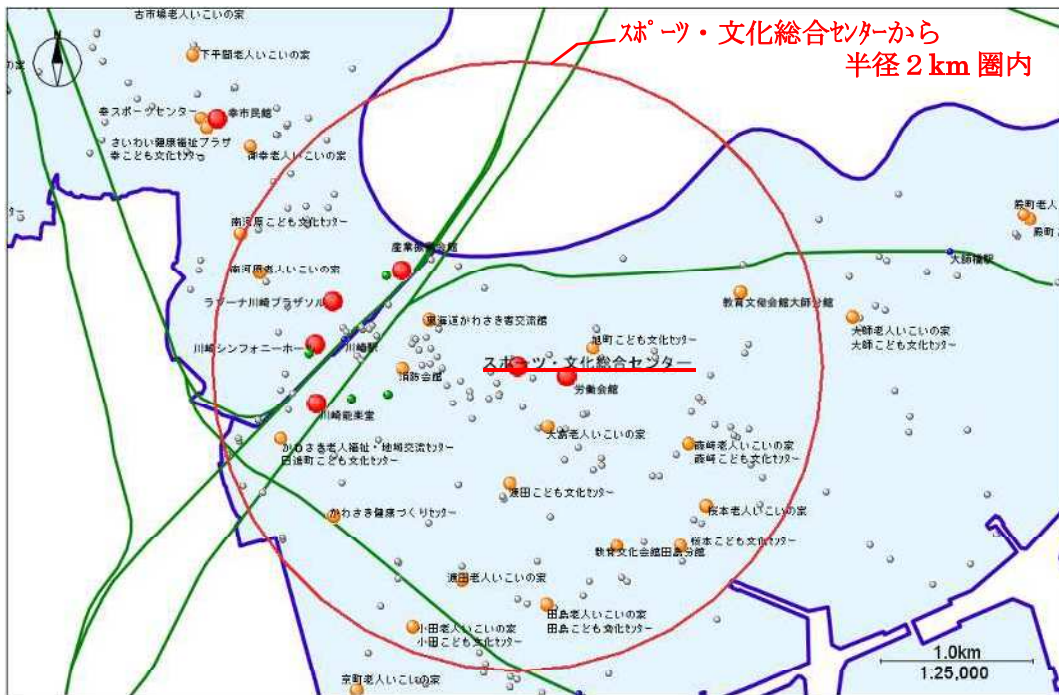


《川崎市労働会館》



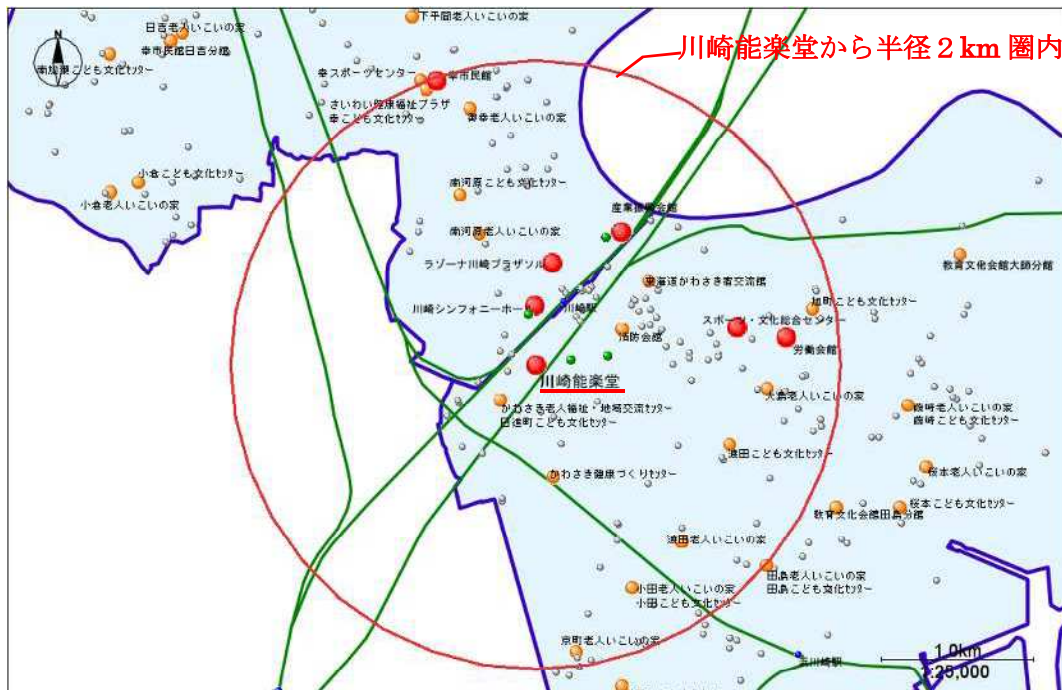
労働会館の半径2 km 圏内には、ホール以外で 23 の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性がある諸室を持っています。

《川崎市スポーツ・文化総合センター》



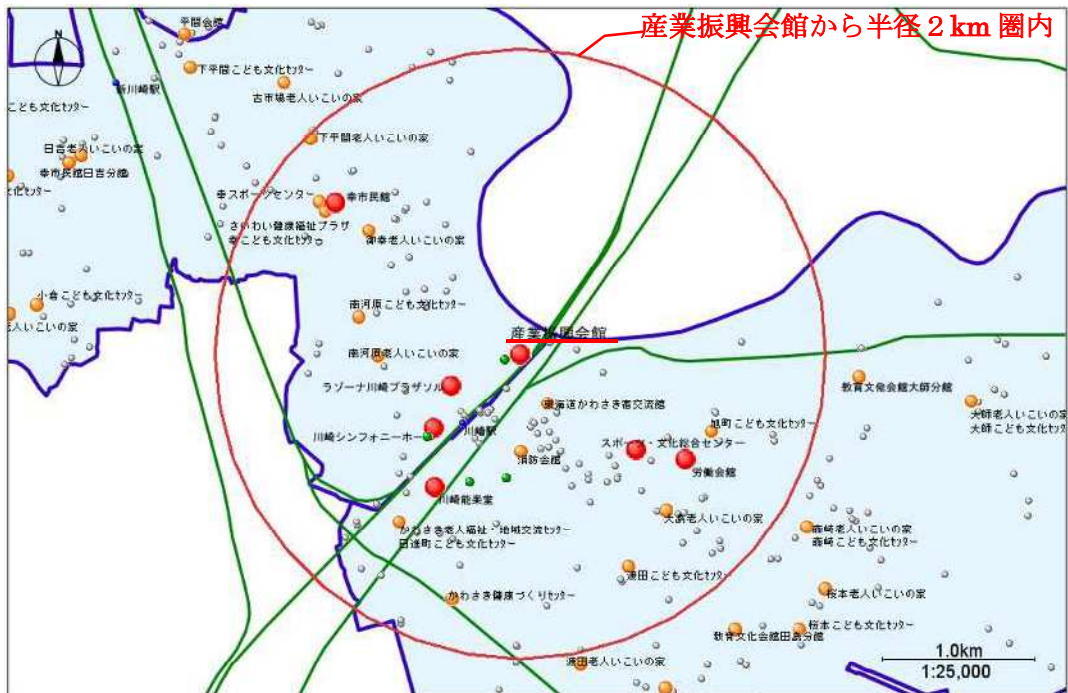
スポーツ・文化総合センターの半径2km圏内には、ホール以外で21の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持っています。

《川崎能楽堂》



川崎能楽堂の半径2km圏内には、ホール以外で17の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持っています。

《川崎市産業振興会館》



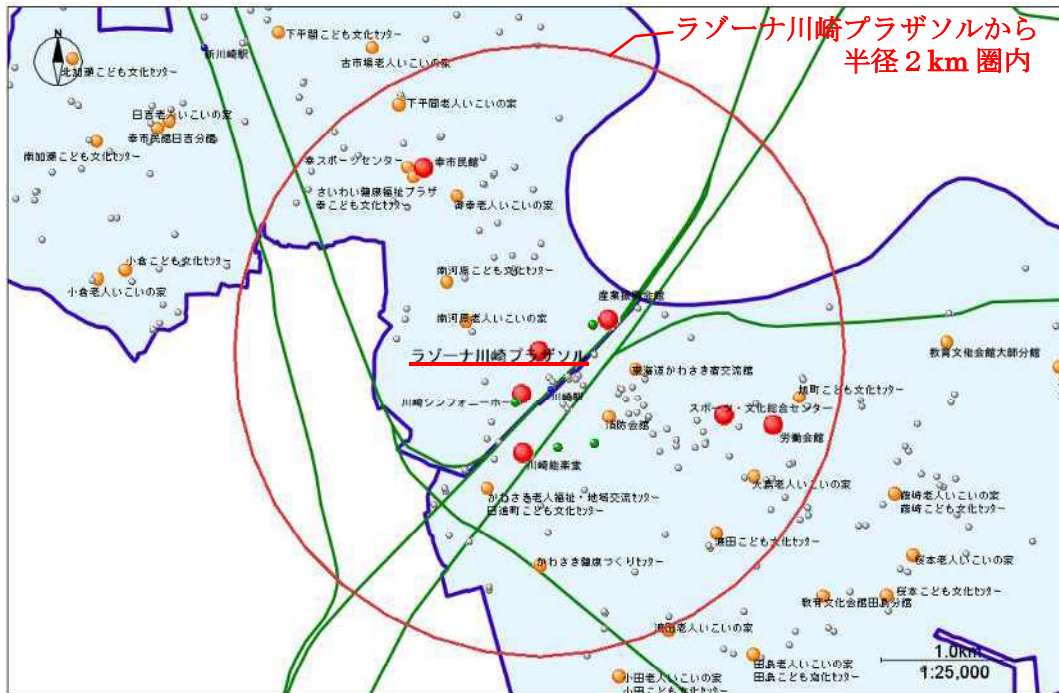
産業振興会館の半径2km圏内には、ホール以外で16の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が15施設あります。

《幸市民館》



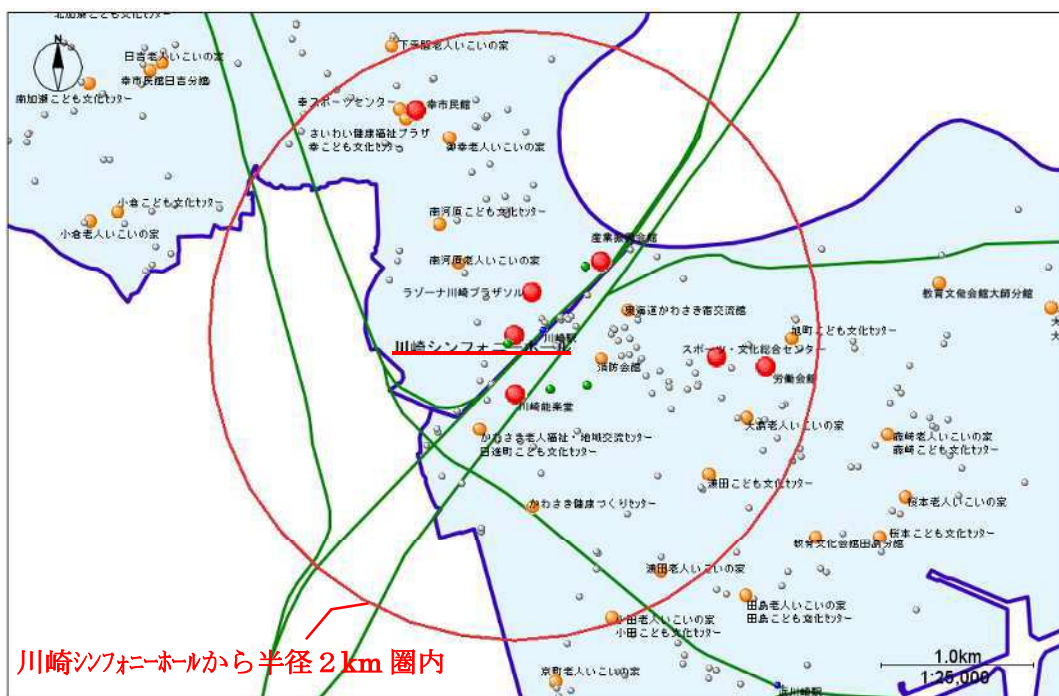
幸市民館の半径2km圏内には、ホール以外で16の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が15施設あります。

《ラゾーナ川崎プラザソル》



ラゾーナ川崎プラザソルの半径2km圏内には、ホール以外で17の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が16施設あります。

《川崎シンフォニーホール》



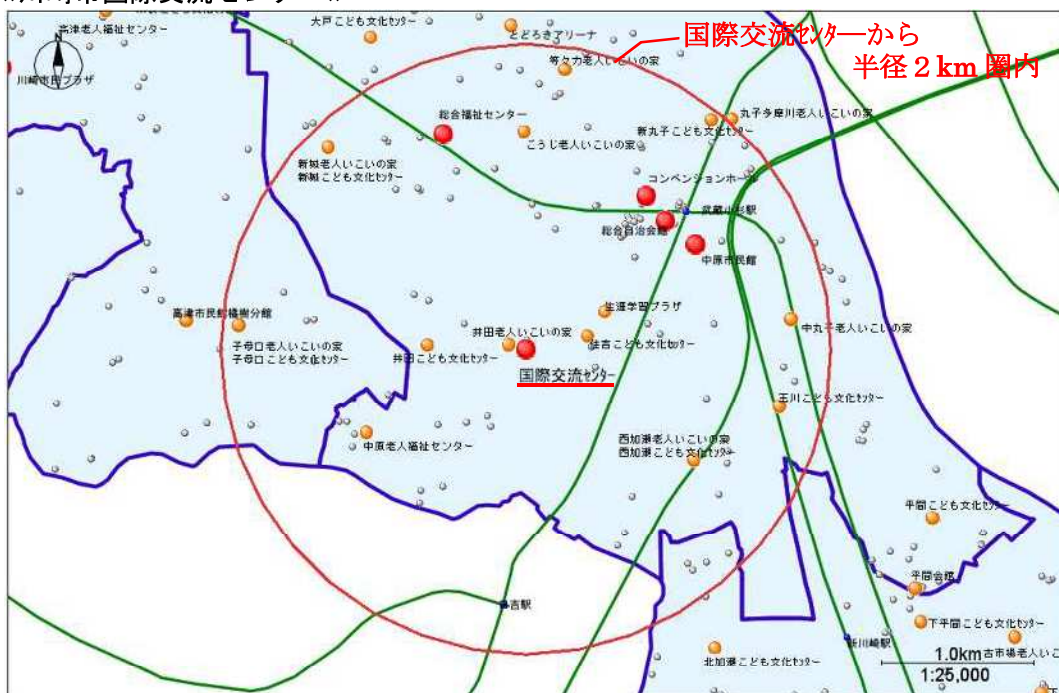
川崎シンフォニーホールの半径2km圏内には、ホール以外で18の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が17施設あります。

《川崎市総合自治会館》



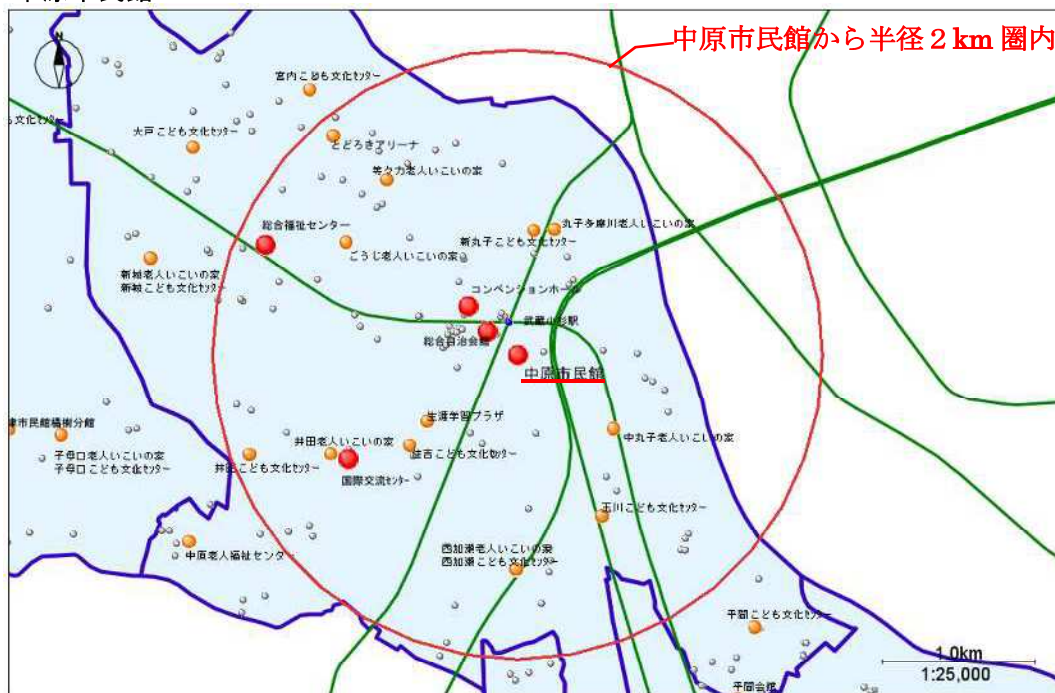
川崎市総合自治会館の半径 2 km 圏内には、ホール以外で 16 の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が 15 施設あります。

《川崎市国際交流センター》



川崎市国際交流センターの半径 2 km 圏内には、ホール以外で 19 の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が 17 施設あります。

《中原市民館》



中原市民館の半径2km圏内には、ホール以外で15の公共施設があり、そのうち、公共ホールで利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持つ施設が14施設あります。

《川崎市総合福祉センター》



川崎市総合福祉センターの半径2km圏内には、ホール以外で18の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持っています。

《高津市民館》



高津市民館の半径 2 km 圏内には、ホール以外で 14 の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持っています。

《川崎市男女共同参画センター》



男女共同参画センターの半径 2 km 圏内には、ホール以外で 11 の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性のある諸室を持っています。

《宮前市民館》



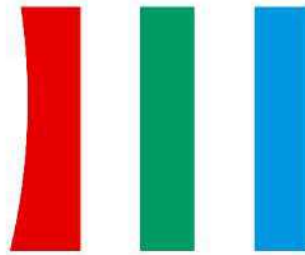
宮前市民館の半径2km圏内には、ホール以外で13の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性がある諸室を持っています。

《多摩市民館》



多摩市民館の半径2km圏内には、ホール以外で9の公共施設があり、これらの施設は公共ホール利用されている用途での活動の可能性がある諸室を持っています。

ホールのあり方を踏まえた具体的な取組の推進にあたっては、活用の可能性がある公共施設の配置状況を踏まえ、現在のホールの練習利用を他の公共施設への誘導などを含め、市民の皆さまがより利用しやすい環境を整えることも検討します。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

公共ホールのあり方（案）

令和5（2023）年 月

総務企画局公共施設総合調整室

TEL 044(200)0755

FAX 044(200)3627

E-mail 17koukyo@city.kawasaki.jp